

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	学部の設置										
フリガナ設置者	カッコリホリジン ショビガクエン 学校法人 尚美学園										
フリガナ大学の名称	ショビガクエンガク 尚美学園大学 (SHOBI University)										
大学本部の位置	埼玉県川越市豊田町1丁目1番地1										
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「智と愛」を建学の精神とし、総合的科学的思考の涵養を教育方針として、広範な教養を授けるとともに芸術と情報及び政策を専門的かつ学際的に教授研究し、その深奥を究めて、各分野において指導的役割を果たしうる創造力と表現力並びに実践力を有する人材を育成することを目的とする。</p>										
新設学部等の目的	<p>スポーツマネジメント学部は、多角的な視点からスポーツに対する理解を深め、現代社会における多様な課題を探究、解決できる人材を養成すること、また、マネジメントの視点から、スポーツにおける多様な価値を実践的、論理的に追求する教育研究を行うことを目的とする。</p>										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	スポーツマネジメント学部 [Faculty of Sport Management]	年	人	年次人	人	学士(スポーツマネジメント) 【Bachelor of Sport Management】	年 月 第 年次	埼玉県川越市豊田町1丁目1番地1			
	スポーツマネジメント学科 [Department of Sport Management]	4	160	—	640		平成32年4月 第1年次				
	計	4	160	—	640						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>総合政策学部 ライフマネジメント学科〔廃止〕(△160) ※平成32年4月学生募集停止</p>										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	スポーツマネジメント学部 スポーツマネジメント学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位					
教員の組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
	新設	スポーツマネジメント学部 スポーツマネジメント学科			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		計			7人 (5)	3人 (3)	4人 (4)	0人 (0)	14人 (12)	0人 (0)	82人 (63)
	既設	芸術情報学部 情報表現学科			9 (8)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	18 (17)	0 (0)	339 (339)
		音楽表現学科			8 (8)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	571 (571)
		音楽応用学科			4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	92 (92)
		舞台表現学科			5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	139 (139)
		総合政策学部 総合政策学科			13 (8)	5 (2)	3 (3)	1 (1)	22 (13)	0 (0)	422 (422)
		計			39 (33)	21 (19)	12 (13)	1 (1)	73 (63)	0 (0)	1563 (1563)
	合計			46 (38)	24 (22)	16 (17)	1 (1)	87 (75)	0 (0)	1645 (1626)	
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計			
	事務職員			23人 (23)		49人 (49)		72人 (72)			
	技術職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員			2 (2)		2 (2)		4 (4)			
	その他の職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計			25 (25)		51 (51)		76 (76)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	82,118.62 m ²	0 m ²	0 m ²	82,118.62 m ²					
	運 動 場 用 地	27,290.96 m ²	0 m ²	0 m ²	27,290.96 m ²					
	小 計	109,409.58 m ²	0 m ²	0 m ²	109,409.58 m ²					
	そ の 他	9,389.42 m ²	0 m ²	0 m ²	9,389.42 m ²					
	合 計	118,799.00 m ²	0 m ²	0 m ²	118,799.00 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		35,277.77 m ² (35,277.77 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	35,277.77 m ² (35,277.77 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	40 室	30 室	136 室	5 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科		14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	スポーツマネジメント学部 スポーツマネジメント学科	175,423 [32,635] (170,213 [32,435])	915 [148] (910 [147])	8 [1] (8 [1])	37,197 (35,947)	0 (0)	0 (0)			
	計	175,423 [32,635] (170,213 [32,435])	915 [148] (910 [147])	8 [1] (8 [1])	37,197 (35,947)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		2736.78 m ²	306	186,308						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体					
		3485.98 m ²	武道場 トレーニングルーム							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体 図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コスト含 む)を含む。	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	 	400千円	400千円	400千円	400千円	－千円		－千円
		共同研究費等	 	2,000千円	2,800千円	2,800千円	2,800千円	－千円		－千円
		図書購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円		－千円
		設備購入費	12,000千円	10,000千円	3,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円		－千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,280千円	1,080千円	1,080千円	1,080千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、寄付金収入、資産運用収入、雑収入等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	尚美学園大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	芸術情報学部	年	人	年次 人	人		倍		埼玉県川越市豊田 町1丁目1番地1	
	情報表現学科	4	160	10 3年次	660	学士(芸術情報)	1.24	平成12年度		
	音楽表現学科	4	100	20	440	学士(芸術情報)	0.78	平成12年度		
	音楽応用学科	4	70	10	300	学士(芸術情報)	1.08	平成27年度		
	舞台表現学科	4	70	10	300	学士(芸術情報)	1.20	平成27年度		
	総合政策学部						0.98			
総合政策学科	4	100	－	400	学士(総合政策)	1.12	平成12年度			
ライフマネジメント学科	4	160	－	640	学士(総合政策)	0.89	平成19年度			
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に於ける学則の変更の届出を行う場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行う場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技を含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教 育	現代社会と経済	1後		2		○										兼1
	現代社会と政治	1前・後		2		○										兼1
	現代の企業経営	1前		2		○										
	現代の国際社会	1後		2		○										兼1
	現代社会と知的財産	1後		2		○										兼1
	現代社会とメディア	1前		2		○										兼1
	心理学の基礎	1前・後		2		○										兼1
	異文化コミュニケーション	1前・後		2		○										兼1
	日本国憲法	1前・後		2		○										兼1
	歴史	1前・後		2		○										兼2
	文学	1前・後		2		○										兼2
	美術	1前・後		2		○										兼1
	哲学	1後		2		○										兼1
	考古学	1後		2		○										兼1
	民俗学	1前・後		2		○										兼1
	日本文化史	1前・後		2		○										兼1
	西洋文化史	1前・後		2		○										兼1
小計（17科目）		-	0	34	0	-				2	0	0				兼15
ス ポー ツ	生涯スポーツ論	1後		2		○										兼1
	教養スポーツA	1前・後		1			○									兼1
	教養スポーツB	1前・後		1			○									兼1
	教養スポーツC	1前・後		1			○									兼1
	スポーツとウェルネス	1前		2						1						
	スポーツとメディア	2後		2		○				1						
小計（6科目）		-	0	9	0	-				2	0	1				兼2
教 養 芸 術	音楽と社会	1前		2		○										兼1
	舞台芸術	1前・後		2		○										兼1
	エンタテインメント企画制作	1前・後		2		○										兼1
	ポピュラー音楽	1後		2		○										兼1
	アート・マネジメント	1前・後		2		○										兼2
	クラシック音楽	1前・後		2		○										兼1
小計（6科目）		-	0	12	0	-				0	0	0				兼6
情 報 技 術 力	メディアリテラシー	1前・後		2			○									兼1
	情報リテラシー	1前・後		2			○									兼5
	データサイエンス	1前・後		2			○									兼1
	プログラミング基礎A	1前		2				○								兼1
	プログラミング基礎B	1後		2				○								兼1
	情報システム概論	1前・後		2			○									兼1
小計（6科目）		-	0	12	0	-				0	0	0				兼10
キ ャ リ ア	キャリアと自己形成	1前・後		2		○										兼1
	職業人基礎能力開発対策A	1後		2				○								兼1
	職業人基礎能力開発対策B	2前		2				○								兼1
	職業人基礎能力開発対策C	2後		2				○								兼1
	キャリアデザインA	2前		2				○								兼1
	キャリアデザインB	2後		2				○								兼1
	インターンシップ	2前・後		2					○							兼1
小計（7科目）		-	0	14	0	-				0	1	0				兼3
異 文 化 理 解 目 的	英語 I	1前		1				○								兼6
	英語 II	1後		1				○								兼6
	英語 III	2前		1				○								兼6
	英語 IV	2後		1				○								兼6
	実用英語 A	1前		1				○								兼4
	実用英語 B	1後		1				○								兼4
	実用英語 C	1前		1				○								兼2
	実用英語 D	1後		1				○								兼2
	中国語 I	1前		1				○								兼1
	中国語 II	1後		1				○								兼1
	中国語 III	2前		1				○								兼1
	中国語 IV	2後		1				○								兼1
	韓国語 I	1前		1				○								兼1
	韓国語 II	1後		1				○								兼1
	韓国語 III	2前		1				○								兼1
	韓国語 IV	2後		1				○								兼1
	アメリカ文化論	1前・後		2			○									兼1
	ヨーロッパ文化論 A	1前・後		2			○									兼1
	ヨーロッパ文化論 B	1前・後		2			○									兼1
	アジア文化論 A	1前・後		2			○									兼1
	アジア文化論 B	1前・後		2			○									兼1
海外研修 A（言語）	1前・後		2					○							兼1	
海外研修 B（文化）	1前・後		2					○							兼1	
日本語 I	1前		2					○								兼3
日本語 II	1後		2					○								兼3
日本語 III	2前		2					○								兼3
日本語 IV	2後		2					○								兼3
日本文化論 A	1前		2			○										兼1
日本文化論 B	1後		2			○										兼1
日本語演習 A	1前・後		2					○								兼1
日本語演習 B	1前・後		2					○								兼1
小計（31科目）		-	0	46	0	-				1	0	0				兼22

教 育 課 程 等 の 概 要

(スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
スポーツ基礎科目	経済学の基礎	1前		2			○													
	社会学の基礎	1前		2			○													
	法学の基礎	1後		2			○													
	政治学の基礎	1後		2			○													
	文章表現法Ⅰ	1前	2																	
	文章表現法Ⅱ	1後	2																	
	小計(6科目)	-	4	8	0		-			1	1	0								兼5
スポーツマネジメント学	スポーツマネジメント論	1前	2				○													
	スポーツ経済学	1前		2			○				1									
	コミュニティスポーツ論	1後		2			○					1								
	ボランティア論	1前		2			○													
	スポーツイベント概論	1後		2			○													
	eスポーツ概論	1後		2			○													
	スポーツ行政学	2前		2			○													
	スポーツジャーナリズム論	2後		2			○				1									
	スポーツ施設マネジメント論	2後		2			○													
	クラブマネジメント	2後		2			○						1							
	まちづくり政策論	2後		2			○													
	スポーツビジネス論	2前		2			○				1									
	マーケティング論	2前		2			○													
	ビジネスプランニング	2後		2			○													
経営戦略論	2後		2			○														
会計学	2前		2			○														
スポーツイベント演習	2前		2					○												
eスポーツ文化論	2前		2				○													
スポーツイベント基本A(スポーツコンテンツ)	2後		2					○												
スポーツイベント基本B(PA基礎)	2後		2					○												
	小計(20科目)	-	2	38	0		-			4	1	1								兼8
スポーツ健康科学	現代スポーツ概論	1前	2				○													
	スポーツ教育論	1後		2			○													
	スポーツ史	1後		2			○					1								
	トレーニング論	1前		2			○						1							
	コーチング論	1後		2			○						1							
	機能解剖学	1前		2			○													
	スポーツ生理学	1前		2			○						1							
	公衆衛生学	1前		2			○													
	健康教育法	1後		2			○						1							
	スポーツ社会学	2前		2			○						1							
	スポーツ法学	2前		2			○													
	スポーツ哲学(体育原理)	2後		2			○													
	発育発達論	2前		2			○													
	野外活動教育論	2前		2			○													
	レクリエーション概論	2後		2			○													
	レクリエーション演習	2後		2					○											
	スポーツ心理学	2後		2			○													
	スポーツ医学(内科)	1前		2			○													
	スポーツ医学(整形外科)	2前		2			○													
	小計(19科目)	-	2	36	0		-			1	1	2								兼7
スポーツマネジメント学	スポーツマネジメント実習	3前・後	2						○											
	スポーツマーケティング演習	3前		2					○											
	スポーツ社会調査論	3前		2					○											
	スポーツ産業論	3前		2					○											
	スポーツビジネスプランニング演習	3前		2					○											
	スポーツ施設マネジメント演習	3前		2					○											
	チームマネジメント論	3前		2					○											
	スポーツブランド論	3後		2					○											
	スポーツとまちづくり	3後		2					○											
	スポーツツーリズム	3後		2					○											
	スポーツ映像(映画・音楽)	3後		2					○											
	eスポーツビジネス論	3後		2					○											
	スポーツイベント展開A(メディアコンテンツ制作配信)	3前		2					○											
	スポーツイベント展開B(ライブPA)	3前		2					○											
	小計(14科目)	-	2	26	0		-			4	2	3								兼7
スポーツ健康科学専門展開科目	バイオメカニクス	3前		2				○												
	スポーツ栄養学	3前		2				○												
	スポーツデータ解析	3前		2					○											
	レクリエーション実習	3後		2																
	救急処置・テーピング演習	3前		2					○											
	幼児体育演習	3後		2					○											
	ジュニアスポーツ演習	3後		2					○											
	サッカー指導法Ⅰ	3前		1					○											
	サッカー指導法Ⅱ	3後		1					○											
	スタジオエクササイズ・トレーニング&フィットネス	3前		1					○											
	スタジオエクササイズ・ピラティス	3後		1					○											
	スタジオエクササイズ・ヨガ	3後		1					○											
	小計(12科目)	-	0	19	0		-			0	0	1								兼6

教育課程等の概要

(スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科専門科目	実技・実習科目 スポーツ方法・体づくり スポーツ方法・陸上 スポーツ方法・ソフトボール スポーツ方法・球技A (サッカー、ラグビー) スポーツ方法・球技B (バスケット、ハンドボール) スポーツ方法・球技C (バレー、バドミントン) スポーツ方法・器械運動 スポーツ方法・水泳 スポーツ方法・柔道 スポーツ方法・剣道 スポーツ方法・ダンス 野外実習 雪上実習	1前	1				○			1								
		1前		1				○			1							
		1前		1				○		1								
		1後		1				○				1						
		1前		1				○										兼1
		1後		1				○										兼1
		1後		1				○					1					兼1
		1後		1				○										兼1
		1前		1				○										兼1
		1前		1				○										兼2
		2前		2						○								兼1
		2後		2						○								兼1
		小計 (13科目)		-	1	14	0			-	1	1	3					兼7
キャリア	教職キャリアデザインⅠ 教職キャリアデザインⅡ	3前		2				○		1								
		3後		2				○		1								
		小計 (2科目)	-	0	4	0			-	1	0	0					兼0	
ゼミナール	基礎演習 プレゼミ 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前		1				○		2	3	3						
		2前		2				○		4	3	3						
		3前		2				○		7	3	4						
		3後		2				○		7	3	4						
		4前		2				○		7	3	4						
		4前		2				○		7	3	4						
		4後		2				○		7	3	4						
小計 (6科目)		-	11	0	0			-	7	3	4					兼0		
教職及び教科の指導法に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法Ⅳ	3後			2		○			1								
		2後			2		○				1							
		3前			2		○					1						
		3後			2		○					1						
小計 (4科目)		-	0	0	8			-	1	0	1					兼0		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理 教職概論 教育行政学 教育心理学 特別支援教育論 教育課程論	1後			2		○										兼1	
		1前・後			2		○			1								
		2後			2		○				1							
		1後・2前・後			2		○			1							兼2	
		1後			2		○										兼1	
		2前			2		○										兼1	
小計 (6科目)		-	0	0	12			-	1	0	0					兼5		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論 総合的な学習の指導法 特別活動論 教育方法論 生徒・進路指導論 生徒・進路指導特論 教育相談概論 教育相談特論	3後			2		○										兼1	
		3前			2		○				1							
		3後			2		○										兼1	
		2後			2		○										兼1	
		3前			2		○										兼1	
		4後			2		○										兼1	
		3後			2		○										兼1	
		4後			2		○										兼1	
小計 (8科目)		-	0	0	16			-	0	0	1					兼4		
教育実践に関する科目	教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教職実践演習 (中・高)	3後・4前・後			1			○				1						
		4前・後			4				○									
		4前・後			2					○								
		4前・後			2					○			1				兼3	
		4前・後			2					○							兼3	
小計 (4科目)		-	0	0	9			-	1	0	1					兼3		
介護等体験のための科目	介護等体験事前指導Ⅰ 介護等体験事前指導Ⅱ	1後			1			○		1		1						
		2前			1			○		1							兼1	
		小計 (2科目)	-	0	0	2			-	1	0	1					兼1	
合計 (189科目)		-	22	272	47			-	7	3	4					兼82		
学位又は称号	学士 (スポーツマネジメント)			学位又は学科の分野			体育関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
○卒業要件 大学に4年以上在学し、下記履修方法に沿って124単位以上修得すること。 ○履修方法 スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科 ①教養科目 30単位以上 (「現代社会の教養」から8単位以上、「スポーツ」から2単位以上、「教養芸術」から4単位以上、「情報技術力」から4単位以上、「キャリア」から4単位以上、「異文化理解力」から8単位以上を修得すること。) ②学部専門科目 82単位以上 (スポーツマネジメント基本科目「ビジネス・産業」から必修2単位を含む8単位以上、スポーツマネジメント基本科目「健康・科学」から必修2単位を含む8単位以上を修得すること。その他必修18単位を修得すること。) ③学部間自由選択科目 12単位以内 (上記①又は②の基準を超えて修得した科目及び他学部他学科の専門科目) 履修科目の登録上限は、22単位(1学期)とする。							1学年の学期区分		2学期									
							1学期の授業期間		15週									
							1時限の授業時間		90分									

教育課程等の概要																
(総合政策学部ライフマネジメント学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教 学 人 間 基 礎 力	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2			○									兼1
	キャリアと自己形成	1前・後		2			○									兼1
	古典的名作の世界	1前・後		2			○									兼1
	知の冒険	1前・後		2			○									兼1
	基礎就業力養成ゼミナールA	1前		1				○								兼1
	基礎就業力養成ゼミナールB	1前		1				○								兼1
	基礎就業力養成ゼミナールC	1後		1				○								兼1
	コースA	1前		1				○								兼1
	コースB	1後		1				○								兼1
	生涯スポーツ論	1後		2			○									兼1
	スポーツ表現A（バスケットボール）	1前		1				○								兼1
	スポーツ表現B（バドミントン）	1後		1				○								兼1
	スポーツ表現C（サッカー）	1前・後		1				○		1		1				兼1
	スポーツ表現D（テニス）	1後		1				○		1						兼1
	スポーツ表現E（卓球）	1後		1				○								兼1
	スポーツ表現F（ソフトボール）	1前		1				○		1						兼1
小計（16科目）	-	0	21	0			-		1	0	1	0			兼6	
養 び 情 報 技 術 力	情報リテラシーⅠ	1前	2				○									兼10
	情報リテラシーⅡ	1後	2				○									兼10
	Webデザイン基礎		2				○									兼2
	データ分析法Ⅰ	1前	2				○									兼1
	データ分析法Ⅱ	1後・2後	2				○									兼1
	ビジネスプログラミングⅠ	2前	4				○									兼1
	ビジネスプログラミングⅡ	2後	4				○									兼1
	データ構造論	1後	2				○									兼1
	情報システム概論	1前・後	2				○									兼1
	確率と統計基礎	1前・後	2				○									兼2
情報学概論	1前・後	2				○									兼1	
小計（11科目）	-	4	22	0			-		0	0	0	0			兼17	
科 の 異 文 化 理 解 目 力	英語Ⅰ	1前		1			○		2							兼10
	英語Ⅱ	1後		1			○		2							兼10
	英語Ⅲ	2前		1			○		1							兼9
	英語Ⅳ	2後		1			○		1							兼9
	選択英語Ⅰ	1前		1			○									兼4
	選択英語Ⅱ	1後		1			○									兼4
	選択英語Ⅲ	2前		1			○									兼2
	選択英語Ⅳ	2後		1			○									兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1			○									兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1			○									兼1
	ドイツ語Ⅲ	2前		1			○									兼1
	ドイツ語Ⅳ	2後		1			○									兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1			○									兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1			○									兼1
	フランス語Ⅲ	2前		1			○									兼1
	フランス語Ⅳ	2後		1			○									兼1
	イタリア語Ⅰ	1前		1			○									兼1
	イタリア語Ⅱ	1後		1			○									兼1
	イタリア語Ⅲ	2前		1			○									兼1
	イタリア語Ⅳ	2後		1			○									兼1
	イタリア語Ⅴ	3前		1			○									兼1
	イタリア語Ⅵ	3後		1			○									兼1
	スペイン語Ⅰ	1前		1			○									兼1
	スペイン語Ⅱ	1後		1			○									兼1
	スペイン語Ⅲ	2前		1			○									兼1
	スペイン語Ⅳ	2後		1			○									兼1
	中国語Ⅰ	1前		1			○									兼1
	中国語Ⅱ	1後		1			○									兼1
	中国語Ⅲ	2前		1			○									兼1
	中国語Ⅳ	2後		1			○									兼1
	韓国語Ⅰ	1前		1			○									兼1
	韓国語Ⅱ	1後		1			○									兼1
韓国語Ⅲ	2前		1			○									兼1	
韓国語Ⅳ	2後		1			○									兼1	
英語圏文化論	1前・後		2			○									兼1	
ドイツ語圏文化論	1前・後		2			○									兼1	
フランス語圏文化論	1前・後		2			○									兼1	
スペイン語圏文化論	1前・後		2			○									兼1	
中国語圏文化論	1前・後		2			○									兼1	
韓国語圏文化論	1前・後		2			○									兼1	
日本語Ⅰ	1前		2				○									兼3
日本語Ⅱ	1後		2				○									兼3
日本語Ⅲ	2前		2				○									兼3
日本語Ⅳ	2後		2				○									兼3
日本文化論A	1前		2				○									兼1
日本文化論B	1後		2				○									兼1
日本語能力試験対策講座	1前・後		2				○									兼1
日本語特殊（漢字）	1前・後		2				○									兼1
小計（48科目）	-	0	62	0			-		2	0	0	0			兼28	

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合政策学部ライフマネジメント学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教 養	哲学	1後		2		○				1							
	法と社会	1前		2		○										兼1	
	社会と人間	1前		2		○										兼2	
	人間の心理	1前・後		2		○				1						兼1	
	文化人類学	1前・後		2		○										兼1	
	暮らしと文化	1後		2		○										兼1	
	音楽と社会	1前		2		○										兼1	
	スポーツと社会	1後		2		○				2							
	クラシック音楽	1前・後		2		○										兼1	
	文学	1前・後		2		○										兼2	
	美術	1前・後		2		○				1						兼1	
	演劇と舞台芸術	1前・後		2		○										兼1	
	歴史	1前		2		○										兼1	
	人間と文化特演	1前・後		2			○									兼2	
小計 (14科目)		-	0	28	0	-			1	2	0	0				兼10	
科 目	情報化と社会	1後		2		○										兼1	
	ジャーナリズム	1前		2		○										兼1	
	著作権	1前・後		2		○										兼1	
	コミュニケーションの心理	1後		2		○										兼1	
	エンタテインメント企画制作	1前・後		2		○										兼1	
	ポピュラー音楽	1後		2		○										兼1	
	日本国憲法	1前・後		2		○										兼1	
	アート・マネジメント	1前・後		2		○			1							兼1	
	異文化コミュニケーション	1前・後		2		○			1							兼1	
	現代社会と経済	1後		2		○										兼1	
	現代社会と政治	1前		2		○										兼1	
	地球と環境	1前・後		2		○										兼1	
	現代の企業経営	1後		2		○										兼1	
	現代の国際社会	1前		2		○										兼1	
都市と建築	1前・後		2		○										兼1		
スポーツ国際支援	1前		2		○					1					兼1		
現代の諸相特演	1前・後		2			○									兼6		
小計 (17科目)		-	0	34	0	-			2	0	1	0				兼12	
目	西洋文化と諸芸術	2前・後		2		○										兼1	
	ビューティ文化	2前・後		2		○										兼1	
	テーマ・パーク論Ⅰ	2前		2		○										兼1	
	テーマ・パーク論Ⅱ	2後		2		○										兼1	
	都市と芸術	2前		2		○										兼1	
	都市と芸術特演	2後		2			○									兼1	
小計 (6科目)		-	0	12	0	-			0	0	0	0				兼3	
総合政策学部ライフマネジメント学科専門科目	基礎科目 (A類)	基礎演習Ⅰ	1前	1			○			2	1	1				兼10	
	基礎科目 (B類)	基礎演習Ⅱ	1後	1			○			2	1	1				兼10	
	基礎科目 (A類)	日本語リテラシーⅠ	1前	2		○										兼4	
	基礎科目 (B類)	日本語リテラシーⅡ	1後	2		○										兼4	
	基礎科目 (A類)	政治学の基礎	1前・後	2		○				1						兼1	
	基礎科目 (B類)	経済学の基礎	1前・後	2		○				1						兼1	
	基礎科目 (A類)	法学の基礎	1前・後	2		○										兼2	
	小計 (7科目)		-	12	0	0	-			2	1	1					兼16
	総合政策研究の基本	政治学概論	1後		2		○			1							兼1
	総合政策研究の基本	地方自治概論	1前		2		○			1							兼1
	総合政策研究の基本	公共政策基礎	1後		2		○										兼1
	総合政策研究の基本	憲法概論Ⅰ	1前		2		○										兼1
	総合政策研究の基本	憲法概論Ⅱ	1後		2		○										兼1
	総合政策研究の基本	民法概論Ⅰ	1前		2		○			1							兼1
	総合政策研究の基本	民法概論Ⅱ	1後		2		○			1							兼1
	総合政策研究の基本	経済学概論	1前		2		○				1						兼1
総合政策研究の基本	経済政策	1前		2		○					1					兼1	
総合政策研究の基本	経営学	1前・後		2		○										兼1	
総合政策研究の基本	会計学	1前・後		2		○										兼1	
総合政策研究の基本	マス・メディア論	1前		2		○										兼1	
総合政策研究の基本	行政法概論	2前		2		○										兼1	
総合政策研究の基本	財政学	2前		2		○										兼1	
総合政策研究の基本	政策過程概論	2後		2		○										兼1	
総合政策研究の基本	行政学概論	2前		2		○										兼1	
小計 (16科目)		-	0	32	0	-			2	1	0					兼7	
文化・スポーツ政策の基礎	文化政策概論	1前		2		○			4							兼2	
文化・スポーツ政策の基礎	文化経済学	1前		2		○			1							兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	文化産業論A (ファッション&ブランド)	1前		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	文化産業論B (コンテンツビジネス)	1後		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	文化コーディネート論	1前		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	日本文化史	1前		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	現代社会と歴史遺産	1後		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	考古学	1後		2		○			1							兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	美術史A (日本)	1後		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	美術史B (東洋)	1前		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	美術史C (西洋)	1後		2		○			1							兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	ポピュラーカルチャー論	1後		2		○			1							兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	ファッション文化論	1前		2		○										兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	食と文化	1前		2		○			1							兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	ビジュアル演習A (美術)	1前・後		2			○									兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	ビジュアル演習B (アニメ&マンガ文化)	1前・後		2			○									兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	ビジュアル演習C (ゲーム文化)	1後		2			○									兼1	
文化・スポーツ政策の基礎	博物館概論	2前		2		○			1							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合政策学部ライフマネジメント学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合政策学部 ライフマネジメント	文化スポーツ ポ ポ ル の 基 礎 コ ー ス 共 通	スポーツ政策概論	1前	2			○			2	3	2			兼1	オムニバス
		スポーツマネジメント	2前	2			○				2					
		クラブマネジメント	2後	2			○				1					
		スポーツビジネス論Ⅰ	2前	2			○				1					
		スポーツ情報処理	2前	2			○				1					
		スポーツ心理学	1前・後	2			○									兼1
		スポーツ哲学(体育原理)	1後	2			○									兼1
		スポーツ生理学	1前・後	2			○					1				
		運動学Ⅰ	1前	2			○									
		運動学Ⅱ	1前	2			○			1	1					
		スポーツ演習A(体づくり運動)	1前	1				○				1				
		スポーツ演習B(陸上競技)	1後	1				○				1				
		スポーツ演習C(器械運動)	1後	1				○								兼1
		スポーツ演習D(水泳)	1後	1				○								兼1
		スポーツ演習E(剣道)	1前・後	1				○								兼1
		スポーツ演習F(柔道)	1後	1				○								兼1
		スポーツ演習G(ダンス)	1前・後	1				○								兼2
		ストレスマネジメント演習Ⅰ	1前	2				○								兼2
		健康教育法Ⅰ	2前	2				○			1					
		健康教育法Ⅱ	2後	2				○			1					
		スポーツ医学Ⅰ	2前	2				○					1			
		スポーツ医学Ⅱ	2前・後	2				○					1			
		スポーツマンシップ論	2後	2				○				1				
スポーツ指導法AⅠ	2前	2					○		1	1						
スポーツ指導法AⅡ	2後	2					○		1	1						
スポーツ指導法B(雪上実習・スキー/スノーボード)	2後	2					○		1							
スポーツ指導法C(スポーツ栄養学)	2前	2					○							兼1		
スポーツ指導法D(野外実習・キャンプ)	2前	2					○			1				兼中 兼中 兼中		
生涯学習論Ⅰ	1前・後	2				○				1						
生涯学習論Ⅱ	1後	2				○				1						
生涯学習支援政策	1前	2				○				1						
社会心理学概論	1後	2				○			1							
文化政策と公衆衛生	1後	2				○								兼1		
マーケティング論	1前	2				○										
社会学	1前	2				○				1						
社会調査Ⅰ	1前	2				○								兼1		
社会調査Ⅱ	1後	2				○								兼1		
小計(55科目)	-	0	103	0	-	-	-	-	5	4	2			兼23		
キャリア	キ ャ リ ア	キャリアプランニング基礎	1後	2			○								兼1	
		キャリア対策講座	1前・後	2			○								兼1	
		海外研修A(言語)	1後	2			○			1						
		海外研修B(文化)	1後	2			○			1						
		職業人基礎能力開発対策AⅠ	1後	2			○								兼1	
		キャリアプランニング演習Ⅰ	2前	2				○							兼1	
		キャリアプランニング演習Ⅱ	2後	2				○							兼1	
		インターンシップⅠ	2前	2					○		1					
		職業人基礎能力開発対策AⅡ	2前	2				○							兼1	
		職業人基礎能力開発対策AⅢ	2後	2				○							兼1	
		キャリアデザインAⅠ	2前	2				○							兼1	
		キャリアデザインAⅡ	2後	2				○							兼1	
		キャリアデザインBⅠ	2前	2				○							兼1	
小計(13科目)	-	0	26	0	-	-	-	-	1	1	0			兼6		
セミナー	セ ミ ナ ー	コース演習Ⅰ	2前	2			○			4	2	2			兼2	
		コース演習Ⅱ	2後	2			○			4	2	2			兼2	
小計(2科目)	-	4	0	0	-	-	-	-	4	2	2			兼2		
展 開 専 門 科 目	文 化 ・ ス ポ ー ツ 政 策 の 展 開	ミュージアム論	3前	2			○			1						
		文化産業論C(食とビジネス)	3後	2			○								兼1	
		文化産業論D(インテリアビジネス)	3後	2			○								兼1	
		文化産業論E(テーマパーク)	3後	2			○								兼1	
		文化マネジメントワークショップA(ツーリズム)	3前	2				○							兼1	
		文化マネジメントワークショップB(博物館)	3前	2				○		1						
		文化マネジメントワークショップC(ファッション&ブランド)	3前	2				○							兼1	
		埼玉・川越の歴史と文化	3後	2				○							兼1	
		伝統芸能論	3後	2				○							兼1	
		ジヤパニメーション論	3後	2				○			1					
		イベント・プランニング・ワークショップA(地域イベント)	3後	2				○			1	1				
		イベント・プランニング・ワークショップB(アニメ&マンガ文化)	2後	2				○							兼1	
		イベント・プランニング・ワークショップC(ゲーム文化)	3後	2				○							兼1	
		スポーツ行政学	3前	2				○								兼1
		スポーツ法学	3後	2				○							兼1	
スポーツメディア	3前	2				○				1						
スポーツビジネス論Ⅱ	3後	2				○				1						
スポーツ施設マネジメント	3後	2				○										
レクリエーション概論	3前	2				○					1					
レクリエーション実習	3前	2				○					1					
レクリエーション演習	3後	2				○										
健康教育法Ⅲ	3後	2				○			1							
ジュニアスポーツ演習	3前・後	2				○					1					
スポーツ指導法E(スポーツ指導者実践論)	3後	2				○										
ダンス応用演習	3前・後	2				○								兼1		
ストレスマネジメント演習Ⅱ	3後	2				○								兼2		

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合政策学部ライフマネジメント学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合政策学部ライフマネジメント学科専門科目	文化・スポーツ政策の展開 コース共通	観光政策論	3前	2		○										兼1	
		観光ビジネス論	3後	2		○										兼1	
		生涯学習支援システム・ネットワーク	3前	2		○											
		スポンサー論	3後	2		○											
		レジャーと社会	3後	2		○											
		NPO論	3後	2		○											
		まちづくり政策論	3後	2		○											
		知的財産法	3後	2		○											
		都市環境デザイン	3後	2		○											
		小計(35科目)	-	0	70	0	-	-	-	4	3	2					兼18
	キャリア	インターンシップⅡ	3前	2													
		キャリアデザインB2	3後	2													
		キャリア形成論A	3前	2				○									兼1
		キャリア形成論B	3後	2				○									兼1
職業人基礎能力開発対策B		3前・後	2				○									兼1	
キャリアプランニング演習Ⅲ		3前	2					○								兼1	
キャリアプランニング演習Ⅳ		3後	2						○							兼1	
小計(7科目)	-	0	14	0	-	-	-	0	1	0					兼4		
ゼミナール	総合演習Ⅰ	3前	2					○								兼13	
	総合演習Ⅱ	3後	2					○								兼13	
	卒業研究Ⅰ	4前	2					○								兼13	
	卒業研究Ⅱ	4後	2					○								兼13	
	キャリア演習Ⅰ	3前	2					○								兼2	
	キャリア演習Ⅱ	3後	2					○								兼2	
	キャリア演習Ⅲ	4前	2					○								兼2	
	キャリア演習Ⅳ	4後	2					○								兼2	
小計(8科目)	-	0	16	0	-	-	-	8	5	2					兼13		
教職	教職概論	1前・後				○										兼2	
	小計(1科目)	-	0	0	2	-	-	0	0	0						兼2	
	教育の基礎理論に関する科目	1後				○				1						兼1	
	教育心理学	1後・2前・後				○										兼1	
	教育行政学	2後				○										兼1	
	小計(3科目)	-	0	0	6	-	-	1	1	0						兼2	
	教育課程及び指導法に関する科目	2前				○										兼1	
	保健体育科教育法Ⅰ	3後				○										兼1	
	保健体育科教育法Ⅱ	2後				○						1					
	保健体育科教育法Ⅲ	3前				○						1					
保健体育科教育法Ⅳ	3後				○						1						
道徳教育論	3後				○										兼1		
特別活動論	3後				○										兼1		
教育方法論	2後				○										兼1		
小計(8科目)	-	0	0	16	-	-	-	0	0	1					兼4		
専門教育	生徒・進路指導論	3前				○										兼1	
	生徒・進路指導特論	4後				○										兼1	
	教育相談概論	3後				○										兼1	
	教育相談特論	4後				○										兼1	
小計(4科目)	-	0	0	8	-	-	0	0	0						兼2		
教育実習	教育実習指導	3後・4前・後						○								兼3	
	教育実習Ⅰ	4前・後										1				兼3	
	教育実習Ⅱ	4前・後										1				兼3	
小計(3科目)	-	0	0	7	-	-	0	0	1						兼3		
教職実践演習	教職実践演習(中・高)	4前・後						○								兼4	
	小計(1科目)	-	0	0	2	-	-	1	1	1						兼4	
介護等体験のための科目	介護等体験事前指導Ⅰ	1後						○								兼2	
	介護等体験事前指導Ⅱ	2前						○								兼1	
	小計(2科目)	-	0	0	2	-	-	1	1	1						兼2	
合計(277科目)			-	20	440	43	-	-	8	5	2					兼85	
学位又は称号	学士(総合政策)		学位又は学科の分野			法学関係、経済学関係、美術関係、教育学・保育学関係、体育関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
○ 卒業要件 大学に4年以上在学し、下記履修方法に沿って124単位以上修得すること。 ○ 履修方法 総合政策学部ライフマネジメント学科 ① 教養科目 30単位 (必修4単位含む) ② 学部専門科目 82単位 (必修20単位含む) ③ 学部間自由選択科目 12単位 (上記①又は②の基準を超えて修得した科目、及び他学部他学科の専門科目) 履修科目の登録上限は、22単位(1学期)とする。						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 現	現代社会と経済	インターネットの発達によって、現代では経済についての情報を手軽に手に入れることが出来るようになった。経済は生きた情報が常に流れており、その最新の情報に触れることは重要である。しかしその最新の情報は、過去の経済・社会現象と常につながっており、「現在」を知るためには、常にその原因である「過去」を知る必要がある。本講義では、20世紀後半以降から現在における社会・経済の特徴を、経済学的な視点から解説する。	
	現代社会と政治	この授業では、現代の日本社会における様々な問題について、まず、何が論点となっているのかが分かるように、政治学や行政学における基礎的な概念も含めて説明をする。主として取り上げるテーマは、国会と政党、内閣、官僚、中央地方関係である。政治学や行政学に関する知識の蓄積と、歴史的な視点を組み合わせることによって、現在の日本社会が直面している様々な問題を多角的な視点から分析・考察し、受講者がそれぞれの問題に対して自分なりの見解を持てるようになることを目標とする。	
	現代の企業経営	我が国が活力を維持するためにはよりよい企業の存在が欠かせない。優れた企業が多く存在する国では国民生活が豊かである。優れた企業は優れた経営によって生まれる。優れた経営は経営者だけが担うものではなく従業員や株主、顧客、取引先も関係している。企業はこれらステークホルダーと利害調整しながら、戦略を作り、マーケティングを行い、組織を充実させ、経営実態を公表することとなる。本講義は、これら4つの分野を概説するものである。	
	現代の国際社会	国際関係の基本概念を説明しながら、現実の国際関係に関して分析を加えて、現在の国際関係の特徴を解説する。適宜具体的な判例を挙げながら、現代の国際社会において国際法の果たす役割や制度、歴史、特色等について理解することを目標とする。	
養 社	現代社会と知的財産	知的財産権に関する諸法、すなわち著作権法、商標法、特許法、不正競争防止、先端技術保護法等を概観する。抽象的な法律論に偏ることなく、知的財産権制度全般とかわる広い視野のなかで、マスコミ、音楽、映像などの各分野との関連にも注目しながら、情報化社会における知的財産権制度の役割や課題について、総合的かつ立体的に理解することができるようにする。	
	現代社会とメディア	印刷革命からインターネットまで、メディア技術の変容は社会空間権力のあり方をどう変えてきたのか。私たち自身の意識と社会の構造、相互関係を読み解く視点として、現代のマスコミュニケーションの諸問題を解明していく。海外の動向、とくに欧米のマス・メディア事情についても政治、経済、文化を背景に言及していく。	
	心理学の基礎	社会心理学の研究領域の内、実験・調査・観察などから得られるデータをもとに、人間の社会的行動の理解・説明・予測を行う実証的な社会心理学を主たる内容とする。私たちの生活の中に身近にみられ、また、関心をもちやすい、対人魅力、対人認識、社会的認知、同調、集団成極化、社会的促進、社会的手抜き、非言語的コミュニケーションについて、理論的、実証的な研究成果を紹介し、同時に、私たちの生活の中でどのように生じているかを考えてゆく。	
科 の	異文化コミュニケーション	グローバル化が進む現代社会において、異文化を正しく理解し、異なる文化背景の人々とのコミュニケーション能力を身に付けることは大変重要である。また、自分のメッセージがどのように相手に理解されているかを正しく認識するためには、自文化も知らなくてはならない。本講義では、異文化・自文化を理解し、実践での諸問題をケーススタディを通して考える。また、様々な異文化を理解するためには英語が必須であることから、英文資料を教材として使用し、英語力の向上にも努める。	
	日本国憲法	憲法を現代社会の教養として学ぶためには、その原理原則および内容の理解を深めることは勿論、国家・社会における憲法典の位置づけ、法典・制度の成立事情、内外の現実社会の展開との関係性を視野に収めることが必要である。本科目では、憲法典の特性と意義（立憲主義）、日本国憲法前史としての大日本帝国憲法、日本国憲法制定史、日本国憲法の構成と原理原則・内容およびその社会的意義、運用の実際と憲法論議、憲法改正をめぐる諸問題を取り上げて講義する。	
	歴史	21世紀の世界が直面する課題を理解し、考えるためには、20世紀を知らなければならない。学生諸君は20世紀末の生まれであり、その記憶はほとんどないことであろうが、20世紀は現代社会のしくみが確立した時代であり、日本と世界が直結した時代でもある。諸君が生を享けた時代はいかなる歴史の中に位置づけられ、これからいかなる時代を生きようとするのか。映像資料もふんだんに用いながら、20世紀の世界と日本を講義する。	
教	文学	「名作」と呼ばれる英米文学を取り上げ、その「名作」が映像化されたものを教室で鑑賞する。イギリスの小説や詩歌についても触れるが、主にイギリスやアメリカの劇作品に焦点をあてながら、講義を行う。毎回の授業では、時代や社会背景を概観し、それぞれの時代に「名作」を残した作家について紹介し、その作家の代表作となる作品を英語の原文や翻訳を通して深く読み、その作品の内容を理解したあと、その映像化されたものを鑑賞していく。	
	美術	西洋と日本の近代美術の鑑賞の方法を実践的に学び、それぞれがどのように関わり合いながら展開したのかを概観していく。美術の様式の変遷を単にたどっていくのではなく、各時代の政治・社会的背景の中での美術作品の意味について考えていく。また、西洋の美術と日本美術の違いについても解説する。	
目 養	哲学	哲学を学ぶということは哲学者の思想（過去分詞形のthought）を学ぶことではなく（もちろん、担当者の思想を学ぶことでもなく）、哲学的に考えること（現在形のthinking）を学ぶことである。本講義のアプローチは哲学と社会科学のあいだの中間的なものであり、本講義を履修すれば、哲学、倫理学、政治学、社会学などの考え方を自分で「使う」ことができるようになるはずである。他人が考えたことを学ぶことではなく、ひとりひとりが考えることを学ぶこと、これが本講義のねらいにほかならない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教	現代	考古学	本講義では、まず型式論や機能論などの考古学独自の理論や方法について解説する。次に、考古学を特徴づける発掘調査の方法について述べ、現代の考古学に必要な不可欠な理化学的年代測定法、古環境や古食性の復元法について説明する。その後、認知考古学や近現代考古学などの考古学の新しい分野について紹介し、最後に現代社会の中での考古学の位置づけについて考察する。なお、実験考古学では履修者に石器作り体験や縄文食体験も行う。
	社会	民俗学	人類は、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する。しかし、人類はこれらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などについて解説していく。
	の	日本文化史	飛鳥時代から江戸時代までの間に生まれた時代的特色のある文化事象を、宗教・芸術・芸能・文芸・風俗の諸領域に整理し、各時代の社会生活との結びつきを重視して講義する。講義対象の事象は単に過去の存在として理解するのではなく、現代に通じる日本文化の特質を表わす「伝統」としての今日的意義を考えさせる。映像・画像資料を多用して興味を深めるように努める。
	教養	西洋文化史	西洋の文化は、日本や東洋とは異なる歴史や宗教や思想を背景として育まれてきた。西洋文化は国や地域により様々な特色をもつが、一方で共有される価値観もある。本講義は、古代から18世紀までの音楽や美術や演劇などの諸芸術を含む西洋文化への理解を深めるために、その基礎となる事柄をテーマ別に解説するものである。神話、宗教、文学死生観、自然科学、国家とキリスト教会の関係、身分制度、宮廷文化など、西洋の諸芸術を理解する上で共通の基礎となる様々なトピックを取り上げる。
養	ス	生涯スポーツ論	生涯スポーツとは、健康増進や余暇活動などを通してそれぞれの生活の質(QOL)を高めることを目的に「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」スポーツをいう。わが国の少子高齢化社会の課題としては、国民の健康増進、高齢者の健康寿命の延伸、青少年の体力向上などの課題があるが、生涯を通してスポーツ・身体活動に携わるうえで、生涯スポーツの担う役割について学ぶ。
	ポ	教養スポーツA	本講義では、生涯にわたる健康づくりの視点から運動・スポーツ活動習慣の重要性を理解し、スポーツ活動に安全に楽しく取り組むための知識および技能について教授する。具体的には、サッカー、バスケットボールを取り扱い、仲間とのチームビルディングを通して、スポーツ活動を安全に楽しむ方法について考える。
		教養スポーツB	本講義では、生涯にわたる健康づくりの視点から運動・スポーツ活動習慣の重要性を理解し、スポーツ活動に安全に楽しく取り組むための知識および技能について教授する。具体的には、バレーボール、テニスを取り扱い、仲間とのチームビルディングを通して、スポーツ活動を安全に楽しむ方法について考える。
		教養スポーツC	本講義では、生涯にわたる健康づくりの視点から運動・スポーツ活動習慣の重要性を理解し、スポーツ活動に安全に楽しく取り組むための知識および技能について教授する。具体的には、バドミントン、卓球を取り扱い、仲間とのチームビルディングを通して、スポーツ活動を安全に楽しむ方法について考える。
科	スポーツとウェルネス	スポーツ科学は、健康体力学や生理学といった身体に直接関与する学問から、社会学やマネジメントといった身体運動に直接関与しない学問まで、幅広い分野にまたがる複合領域である。本講義の目的は、健康に関する理論や実践を総合的に学び、生涯にわたってスポーツや運動に親しむ必要性和その方法を考えることである。	
	スポーツとメディア	スポーツの世界は社会の動きと表裏一体をなすもので、スポーツのニュースは社会的にも大きな影響を及ぼしている。メディアはその動向を伝える機関として極めて存在感が大きく、役割が重要視されている。この授業では、まずメディアについて学び、スポーツとメディアの関係を理解する。そして「新聞」、「放送」の既存メディア、若者に圧倒的に支持される「ニューメディア」を用い、スポーツ及びその周辺の変容をどのような視点で捉えるかについて論述する。	
	教養	音楽と社会	時代が音楽を生み、音楽が時代の空気をすくい上げて彩を添える。だからこそ、時代が生んだ歌は“文化”となりえるのだ。その意味では、時代と音楽の関係を紐解くことで、ミュージック・シーンの新しい地平を予見して切り開く。この授業では、そんなプロデュース感覚を磨くことで、ミュージック・ビジネスの基本を身につけることができる。どんなに時代が変わっても、時代という波を的確にとらえて乗りこなすことができる“時代のサーファー”ともいえるべきセンスが必要とされる。そのセンスを身につけた者が勝者となるのだ。その域に近づけるような授業をめざす。
目	芸	舞台芸術	視覚芸術のみならず、舞台芸術、パブリックアート、環境芸術、音楽などの他分野とのコラボレーションを含み、新しい芸術の創造を試みる現代の作家数人を取り上げ、それぞれの作家の作品群と制作活動について集中的に学び研究する。そこからそれぞれの作家の作品と現代の関係を探り、時代を切り取る目とその方法論、さらに現代に於ける美術の持つパワーについて考察する。
	術	エンタテインメント企画制作	本授業では、テレビ、ラジオ、映画、演劇、ミュージカル、コンサート、ショーなどエンタテインメントの企画・制作に共通する概念および企画書、実施要項、進行台本などエンタテインメントの制作に必要な手順の基本を学ぶ。授業の題材には、実際の企画書、実施要項、進行台本などを用いて、これらの必要事項と制作プロセスをマスターすると同時に、現在のエンタテインメントの企画・制作上の問題点を探り、その解決方法を考察する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 芸 術	ポピュラー音楽	ポピュラー音楽とは誰にも親しまれている歌、つまり“流行歌（はやりうた）”と言っている。1960年代の流行歌は歌謡曲や演歌、70年代はアイドルやフォーク&ニューミュージックなど。そして、80年代になると、Jポップが若者たちの支持を受け、＜ポピュラー音楽＞となった。そんな変遷を探る。身近にあって、あたりまえだと思っているJポップだが、一朝一夕にして成ったのではない。時代が必要としたからこそ、時代の中から必然的に生まれてきたのだ。時代と音楽の関係を知って初めて理解できるものがある。	
	アート・マネジメント	私たちの生活の中で、アートが果たす役割について考え、アーティストの仕事について理解する。そして、現代社会の中でのアートの公的意味について考え、アーティストと社会をより良く結びつけるためのアート・マネジメントの役割と実際について学び、その課題と可能性について考察していく。アートが社会の中で果たす役割を身近な問題としてとらえ、アートと社会をより良く結びつけるさまざまな方法を理解することを目指す。	
	クラシック音楽	この授業では「クラシック音楽」というものの意味とその問題点を考えていく。それはどのような特徴を持ち、どのような長所と短所があるのか。中世から現代までの歴史の中から、代表的なものや滅多に耳にする機会のない貴重なものまで様々な切り口で紹介していく。またポピュラー音楽との比較も適宜行う。クラシック音楽を神棚から下し、このジャンルに対する考え方を一変させるような授業を行う。	
養 科	メディアリテラシー	情報化社会の進展、情報公開の流れの中で、組織（民間企業・国・自治体、NPOなど）の広告・広報活動は、重要な意味を持っている。広告・広報においては、映像メディア・活字メディア・インターネット等のメディアがあり、各々の目的・影響力は異なる。こうした各メディアの持つ社会的な機能と役割を理解し、また実務を知ることを目的とする。こうした知識を得ることによって、優れた情報の発信者・鋭敏な視点を持った受け手として、活躍する基盤を形成する。	
	情報リテラシー	今日ではインターネットを使ったコミュニケーションや情報検索が大変便利となり、SNS・ブログなど情報発信も容易となった。また今まで手書き・電卓でやっていた作業も、パソコンでずっと短時間でクオリティの高いものを作り上げることができる。これらの活用スキルは、今や現代人の基礎的素養として必須のものとなった。本授業においては、インターネットによる情報検索・メール・ブログ発信に始まり、Wordによるレポート・各種文書の作成、更にPowerPointを使ったプレゼンテーションを自由にこなせるようにする。	
	データサイエンス	情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業ではデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように活用されているのかを学ぶ。また、個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく心理学や社会学など社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。	
	プログラミング基礎A	コンピュータで実行したい処理を、何らかの手続に基づき記述することを、プログラミングと呼ぶ。プログラミングを行なうためには、アルゴリズムとデータ構造、およびプログラミング言語を習得する必要がある。本科目では、そのうちアルゴリズムとデータ構造を取り上げる。アルゴリズムとは処理手順をあらわしたもので、扱うデータ構造に依存する。またアルゴリズムの表現には、規格制定されている構造化チャート（PAD）を用いることにする。PADを用いてアルゴリズムを検証するツール（JPADet）により、コンピュータによる演習を中心に進める。	
	プログラミング基礎B	プログラミング言語の一つであるC言語を用いて、プログラミングの演習を行なう。C言語は、プログラミング開発の現場で最もよく使われる言語で、JISでも規格制定されているメジャーな言語である。ここでは、プログラミング基礎Aで取り上げたアルゴリズムとデータ構造について、C言語を用いてプログラミングする。したがって、C言語の文法と構文を中心に、演習を進めていく。	
	情報システム概論	情報システムの中核であるコンピュータが誕生してから約70年を迎える。その間に、小型高性能が進み、あらゆるモノにコンピュータが組み込まれネットと接続できるIoTが進化した。また、人工知能の進展も目覚ましく、既に囲碁や将棋の世界でヒトを凌駕するレベルとなり、2045年にはAIがヒトの知能を超越するシンギュラリティが訪れるとも言われている。その一方で、サイバー犯罪などセキュリティ上の問題も増大している。本科目では、このようなICT技術のトレンドについて考察する。	
目	キャリアと自己形成	キャリアとは「大学卒業後の長い人生の歩み」を意味する。より充実したキャリアを形成するためには、将来必要な能力を大学時代に高めておくことが重要である。この授業では社会で求められる「考える力」「情報読解力」を鍛えることを目的とする。また新聞・テレビ等のマスメディアが伝えていない「社会の読み解き方」を解説しながら「思考力」も養成する。AI（人工知能）やロボットの普及により今後10～20年間で現在ある仕事の47%が消えるといわれており、これからの時代を生き抜いていくために必要なことも解説していく。	
	職業人基礎能力開発対策A	この授業では、「的確で柔軟な情報処理能力」である論理的思考力を養うことを目的とする。数的処理に対応できる能力・考え方を身につけるために実践練習は欠かせないものである。授業では問題演習を繰り返しながら、思考の働かせ方を身につけていく。具体的には、最低限必要な計算力を身につける。	
	職業人基礎能力開発対策B	この授業では、「数値から妥当な推論に基づいて一定の結論を導き出す能力」である論理的思考力を鍛えることを目的とする。数的処理に対応できる能力・考え方を身につけ、論理的思考力を磨くにあたって実践練習は欠かせないものである。授業では問題演習を繰り返しながら、思考の働かせ方を身につけていく。具体的には、作業の効率化・最適化等の論理的判断を素早くすることができる。	
	職業人基礎能力開発対策C	この授業では、「情緒豊かな日本語を正しく使うこと」を学び、論理的思考力を鍛えることを目的とする。そして自己理解とキャリア形成を自主的に行うことをめざす。論理的思考力を磨くにあたって実践練習は欠かせないものである。授業では問題演習を繰り返しながら、思考の働かせ方を身につけていく。具体的には、複雑な状況設定であっても物事を正しく把握できる文章読解力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教	キ	キャリアデザインA	社会や仕事の中で活躍するために必要となる力＝社会人基礎力を養う。具体的には、上級生へのインタビューをグループで行い、その活動を通して、卒業後のイメージをふくらませる。失敗したことのない人は、いつまでたっても自分に自信が持てないものである。この授業でさまざまな人と接し、いろいろな経験をして、失敗からも学べる人に成長することを目的とする。
	ヤ	キャリアデザインB	就職活動において多くの学生は自己理解（自己分析）についての準備は行いが、自分の働き方や生活に大きく関わる業界・企業についての研究をおろそかにする傾向が見受けられる。別の言い方をすれば、業界・企業研究をしっかりと行った学生は視野が広がり、多くのチャンスを手にする可能性が高まるということである。この授業では、業界・企業研究を通して産業の現状とそこでの働き方を学修し、自分が将来どのようなことをしていきたいのか、どのような組織で働きたいのかを探索していく。
	ア	インターンシップ	この授業では、企業の中で仕事を体験しながらビジネスを学ぶ。講義だけでは分りにくい会社の仕組みや、ビジネス現場ならではの問題や解決法などを、身をもって知ることができる。希望する職業の理想と現実のギャップを埋めていくとともに、「働く」ことに対するイメージをつかむことを目的とする。具体的には事前研修の後、企業実習を行い、終了後は事後研修に参加し、実習レポートを提出する。
養	異	英語 I	英語のリスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの力を総合的に向上させることを目標とする。基礎の確認から自分の考えを英語で表現する力を養うトレーニングを行うとともに異文化理解を深め、グローバルな視点を培う。英語 I では基礎力を固めるとともに、ウェブページや映像・音楽などを活用し、実践的な英語運用能力を身につけることをめざす。
		英語 II	英語のリスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの力を総合的に向上させることを目標とする。基礎の確認から自分の考えを英語で表現する力を養うトレーニングを行うとともに異文化理解を深め、グローバルな視点を培う。英語 II ではテキストだけでなく、様々なメディア等を媒体とした生きた英語を聴き取り、また読んで理解し、発信できる力を身につける。
	文	英語 III	この授業では英語の総合力をつけることを目的とする。「聴くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」、「考えること」これらは、どの技能も大切であるが、分断しては、総合的な英語の力はつかない。文法の基礎・基本を確実にし、全員が音読できることを最低の目標とする。そして、4技能につながりを持たせることで英語の総合的なコミュニケーション能力をつけることを目標にする。
		英語 IV	この授業では英語の応用力をつけることを目的とする。技能だけでなく文化的背景や言語観、教養面でも高めていく。技能面では、リスニング、穴埋めをして、完成文の理解、文法問題や読解、それまでに習った文法を使って英作文を行う。また、ビジネスにおける英語表現についても学修する。
科	化	実用英語 A	(英文) This course is to help you use Basic English to say what you feel. We will use POP CULTURE to study topics. 1. Confidence in English speaking. 2. Exchanging opinions with other students. 3. Self expression. 4. Basic English / Planning & speaking a presentation. (和訳) この授業では、自分の感じたことを基礎的な英語を使用して表現できるようになることを目指す。テーマとしてはポップカルチャー（大衆文化）を扱う。具体的には、以下のことができるようになることを目標とする。 1. 英語を話す自信をつける 2. クラスメイトと意見を述べ合う 3. 自己表現をする 4. 基礎的な英語を用いて、プレゼンテーションを準備し、実施する
	理	実用英語 B	(英文) Topic: Business/Work of Work English This course will help students to improve their English language skills as it relates to a better understanding of Western and international business practices. (和訳) トピック：ビジネス（仕事で使う英語） この授業では、欧米及び国際的なビジネス慣習をよりよく理解できるようになることを目指し、英語のスキルを向上させることを目標とする。
	解	実用英語 C	(英文) English for Overseas Travel Students follow the adventures of a group of Japanese characters as they travel to many countries around the world. The student will use English in situations for common survival such as asking for directions, checking into a hotel, asking host parents about house rules and answering questions about Japan. (和訳) 海外旅行のための英語 履修者は、登場人物の日本人グループが世界中の国々を旅行する冒険を追っていく形で学修をする。道を探ねたり、ホテルにチェックインしたり、ホストファミリーに家のルールを探ねたり、日本についての質問に答えたりという一般的な状況の中で、最低限必要な英語を使えることを目指す。
目	力	実用英語 D	(英文) In this class you will learn the techniques for improving your communication skills. You will be able to ask and answer questions effectively, understand spoken instructions and give spoken instructions to others. You will also develop critical thinking skills, predict outcomes, understand cause and effect and make comparisons. (和訳) この授業では、コミュニケーション技術が高めるためのテクニックを習得する。効率よく質問をしたり答えたりできること、英語による指示を理解し、他の学生に英語で指示をすることができるようになることを目指す。更には、クリティカルシンキング力（批判的思考力）、結果を予測する力、原因と結果を理解する力、比較ができる力の向上を図る。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 異	中国語Ⅰ	本授業は、中国語の学修をゼロからスタートする学生を対象とする。難しいとされる発音の練習を中心に、中国語のピンインを勉強しながら、自己紹介、挨拶、時間と期日を述べる方法などができるようにする。文法に関しては、日常会話を行うのに必要な基本文法を教える。さらに履修者の勉強状況、習熟度に応じて、関連する中国語のドラマやアニメなどを見ながら、本番の中国語場面に触れ、実践的な感覚を涵養する。	
	中国語Ⅱ	本授業は、中国語の基本文法、日常会話の習得を徹底する。中国語会話に最低限必要な単語や表現を場面ごとに分類、整理し学修する。更に中国文化についての理解を深めていく。中国語で日常レベルの事物の紹介ができるなど、初級レベルの中国語運用能力の向上を目指し、中国語検定準4級の合格を目標とする。中国文化の特徴を日本との比較で理解できるようにする。	
	中国語Ⅲ	本授業ではまず、日本の近隣国である中国について文化理解を深め、次に会話訓練を行う。中国語で話すことによって、相手とコミュニケーションができるようになることをめざし、訓練する。さらに文法理解に進む。数千年の長い歴史の大河を流れてくれば、ごつごつした岩も角が取れて丸くなる。文法的なきまりごとがあるようでない中国語。西洋近代言語学では捉え難い中国語の構造を体系的に学ぶ。	
	中国語Ⅳ	本授業によって、現在の中国が抱える新しい問題や中国人の考え方・習慣等を学び、より高度な中国語を理解するための背景知識の獲得を目指す。また、それに関連する重要な言葉や日常的に覚えておく役立つ慣用句を勉強し、読解力や会話力の向上を狙う。テーマに沿った内容を持つ中国の新聞記事などを使い、その内容を正確に読解し把握したあと、意見発表やディスカッションを行う。中国語での表現力を高めていくことで、応用力を高める。	
養 化	韓国語Ⅰ	韓国語で用いられるハングルという文字を単なる記号ではなく音を表す文字として理解し、正確に発音できるよう演習を重ねていく。言葉の背景にある文化にも触れながら、韓国語ならではの表現に慣れるよう進める。読む、書く、聞く、話す力をバランスよく高められるよう進めていく。ハングルの子音と母音について理解し、簡単なあいさつ表現ができることを目標とする。	
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだ文字の読解と基本会話をもとに、一步進んだ表現の習得を目指す。フレーズの中で起こる発音の変化に留意しながら基本的な会話の反復練習を毎回行い、一方的に話すだけでなく韓国語での問いかけにも意味を理解し的確な表現で答えられるよう、会話の能力を養う。韓国の文化的背景となる資料を適宜紹介し、韓国語の自然な文章表現の理解につなげる。基本文型を理解し、韓国語での簡単な問いかけの意味を理解し韓国語で答えられることを目標とする。	
	韓国語Ⅲ	韓国語Ⅰ、Ⅱで習得した知識をもとに文法知識を高め「読む、書く、話す、聞く」力をバランスよく定着させるよう演習を重ねる。この授業では、各課ごとのテーマに沿った対話の中から新しい文法事項と表現を学んでいく。韓国語の背景となる韓国の文化理解についても言及する。韓国語Ⅱまでに学修した「読む、書く、話す、聞く」力を定着させること、より長い文章を作成し読めることを目標とする。	
	韓国語Ⅳ	韓国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで習得した知識をもとに、さらに文法知識を高め「読む、書く、話す、聞く」力をより定着させるよう演習を重ねる。この授業では韓国語Ⅲと同様、各課のテーマに沿った対話の中で新しい文法事項を学び、音読、会話練習も取り入れ、長い文章の読解も行う。これまでの韓国語学修を整理し、韓国の文化に関する理解を深める。さらに「読む、書く、話す、聞く」力を高め、自身の意志を示し聞き手の意向を確認すること、自然な会話体を用いより長い文章を話せることを目標とする。	
科 解	アメリカ文化論	本講義ではアメリカの文化・文学や歴史、社会現象等について考えていく。特に、変化するアメリカ社会を時代背景にした様々な「家族像」を描いた映画を題材として考察する。アカデミー賞受賞作といったメジャー作品からテレビ用映画として製作されたあまり知られていない映像作品まで、新旧を問わずその多様な作品を取り扱いながらアメリカの「家族像」の実相を追って行く。	
	ヨーロッパ文化論A	本講義ではヨーロッパ文化の中でも、13世紀初頭にドイツ語で著された、騎士物語、英雄伝説に題材を取った作品、さらに第二次世界大戦後の東西ドイツ分断の時代、特に東ドイツの人々の生きざまを描いた映画を扱う。最初に扱う騎士物語や英雄伝説は、現代の日本とは時代も場所も遠く隔たっているが、登場人物が経験する挫折や葛藤、喜びは、驚くほどに現代の日本人のそれらと相通するものがある。さらに東西冷戦下で様々な不自由を強いられた人々とその映画における描かれ方も扱い、人間のありようについて考える。騎士物語や英雄伝説、東ドイツの人々の生きざまを描いた映画を通じ、現代の日本とは時代や文化の違いがありながらも、人々が葛藤し、問題を解決しようとした様を知るから、今を生き、物事を分析し、課題に対処する上でのヒントが得られるようにしていく。	
	ヨーロッパ文化論B	本講義では、ヨーロッパ文化の中でわが国に多大な影響を与えてきたフランスの文化を学修していく。文化とは多方面にわたるものであり、1つの分野を深く学修するのではなく、歴史・食文化・生活・制度などを広く概観し、フランスの全体像を捉えていく。フランスの文化現象を多角的に概観していくことで、総合的な異文化理解を深めていくことを目標とする。	
目 力	アジア文化論A	アジア文化、とりわけ中国の文化は時代によってその存在形態を変容してきた。時に応じて、言語が、民族が、宗教が、流動の主たるエネルギーであった。そのさまざまな局面を通史的に説明してゆく。中国の文化を把握し、理解して、国際人としての資質の向上をめざす。	
	アジア文化論B	本授業では、アジア文化の中で特に大韓民国における文化を広範に理解することを目的とする。理解を深めるために映像資料の鑑賞も行いながら、韓国の文化とその流れについて理解し、自国の文化との比較から幅広い視野で総合的に考察する力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	異	海外研修A（言語）	短期海外研修地において、現地で使用されている言語を集中的に学修する。本学提携大学の授業は全て現地の有資格教員により英語で行われ、教員から学生への一方通行でなく、教員対学生、および学生対学生間の英語によるコミュニケーションを主体として進められる。
		海外研修B（文化）	短期海外研修地において、午前の英語授業終了後の課外に実施する、研修地付近の文化施設の訪問・見学、ボランティア体験、観光などを通し、海外の文化に全身で触れる。また、各研修者は、研修先の現地家庭にそれぞれ滞在し、海外の家庭の有り方、文化を実地体験する。
	文	日本語Ⅰ	この授業は留学生を対象に以下のことを中心に行う。1) 社会科学の基本的用語を学修し、語彙を増やす。2) 視聴覚教材を使い、講義理解のための聴解力を身につける。3) 小論文を書くための準備として、文章を構成する力や推敲する力を身につける。4) 日本語能力試験N2の文法項目を毎回演習形式で身につける。また、大学で学ぶために必要な日本語を習得することを目的とする。読解を通して文章の構成を学び、練習課題、作文を繰り返し、学術的な文章作成の基礎を習得する。
		日本語Ⅱ	この授業は留学生を対象に以下のことを中心に行う。1) 小論文を書くための準備として、文章を構成する力や推敲する力を身につける。2) 日本語能力試験N2の文法項目を毎回演習形式で身につけていく。3) 日本語Ⅰ・Ⅱの総まとめとして、最後にクラス内のスピーチ大会を行う。また、大学で学ぶために必要な日本語を習得することを目的とする。論文の読解を通して、一定の構成形式にしたがった学術的な文章を作成し、口頭で発表するための技術を習得する。
	化	日本語Ⅲ	この授業は留学生を対象に以下のことを中心に行う。1) 日本語文章の読解を通し、大学に必要なアカデミックな日本語力を身につける。2) ディスカッションの時間に日本語を使って深く考えたり伝え合ったりすることで、日本語を自由に運用していく力を高めていく。3) 日本語Ⅰ・Ⅱで学修した論文の書き方を元に、社会に目を向けた主張のある文章を書けるようにする。4) 毎回、漢字の導入を行い、漢字と語彙を増やしていく。5) 日本語能力試験N1の文法項目を毎回演習形式で身につけていく。また、大学で学ぶために必要な日本語の運用力をつけ、説得力のある意見が述べられるようになることを目的とする。さまざまな文章を通して読解の基礎知識を学び、意見を発表するための技術を習得する。
	理	日本語Ⅳ	この授業は留学生を対象に以下のことを中心に行う。1) いろいろな文章の読解を通し、中上級レベルの日本語力を身につける。2) 速読法を学び、真の意味での読解力向上を目指す。3) 2年間の「論文の書き方」学修の総まとめとして納得のいく小論文を完成させる。4) プレゼンテーションの学修を通し、勉強・研究のための日本語運用力を養成することを目指す。また、大学で学ぶために必要な日本語の運用力をつけ、説得力のある意見が述べられるようになることを目的とする。学術的な文章の作成とそれを口頭発表するための技術を、課題と関連づけて体験し、習得する。
	科	日本文化論A	この授業では、留学生を対象に視聴覚教材を利用して日本文化の諸相を概観する。前半は、古代日本の『古事記』『日本書紀』の神々の時代から江戸時代までの代表的な日本の古典芸能が、どのようなものかを具体的に紹介し、後半は明治以降、大正・昭和を経て平成の時代に至るまでのマンガとアニメの歴史を概観する。
	解	日本文化論B	この授業では、留学生を対象に日本文化を外国文化と比較しながら論じ、DVDなどの視聴覚教材を利用して日本文化の諸相を明治以降のマンガ、近代劇、大正時代のラジオドラマ、昭和の映画、テレビアニメなどに焦点をあて概観する。例えば、日本のマンガの源流には『鳥獣戯画』があり、江戸時代の浮世絵の影響も受け、明治時代には、西洋のマンガの影響も受け、発展し、やがて日本のアニメが、大正時代に誕生する。現代の日本文化を表象する手塚治虫や宮崎駿のアニメを取り上げ、日本文化の特色を概観する。
	目	日本語演習A	この授業では、外国語として日本語を学修している留学生を対象に、日本語の重要文法、読解を中心に講義を行う。文章の構成を理解し、文型の働きを知る。そして日本語で書かれた文章を読んだりレポートを作成したりするのに支えとなる日本語の文型を身につけることを目標とする。テキストに沿って問題演習を行い、日本語での読解、作文等において必要となる文法知識を身につける。
		日本語演習B	非漢字圏の留学生を対象に、漢字の基本（偏と旁、音読みと訓読み、書き順等）を確認する。そして、まとまりのある日常会話・解説を聞いて内容が理解できるようにする。また、社会科学系の文章によく出てくる漢字を見て意味がつかめるように、語彙と漢字を一緒に覚えていく。さらに、その漢字の読みができるようにすることが目的である。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメント学	基礎	経済学の基礎	この授業では、最近の話題になったニュースを取り上げ、国の経済状況と政策などについて議論しながら、経済のことを理解してもらおうのがねらいである。したがって、日頃経済ニュースをある程度知っておく必要がある。経済に関するテーマを数多く取り上げる以外、経済学の基本なども授業内容の一部になる。
	基礎	社会学の基礎	この講義では、4つのテーマ「個人と社会」「家族」「階層・組織」「逸脱行動・社会変動・都市」を設定し、社会学の基本的な議論について具体的事例や様々な映像を交えながら解説する。
	基礎	法学の基礎	法とは何か、社会生活における法規範の存在意義といった基本的問題に始まり、国家・社会を律する法秩序のあり方とそれを成り立たせている現行の法体系を学び、これによって一般社会生活と法との関係を理解させる。そのうえで、できるだけ身近な題材を用いながら「契約」など実生活を規定する法的関係への理解を深めるとともに、法的思考を身につけるための基礎を提供する。法文化的アプローチを基本としつつも、社会の現実に関わる諸問題に目配りして具体的な法律知識に触れさせるように努める。
	基礎	政治学の基礎	世の中に政治というものがあることは誰でも知っているが、それが何のために存在しているのかについては、なかなか答えが出てこない。しかし、政治がわれわれの生活において非常に重要な意味を持っていることは間違いない。この講義では、現実の政治の中で起こっているいくつかのトピックをあげながら、政治の役割と意義についての知識を修得し、同時に社会科学に関する基本的な考え方を学ぶことを目的とする。
	基礎	文章表現法Ⅰ	自分の考えを文章で伝えるためには、まず、的確な言葉を選んで乱れない文（正しい文）を書く力が必要である。そして、身の回りから問題を発見し、事実を確認し、事実に基づいて思考し、他人によく理解される表現で書く力（文章作成力・文章構成力・文章表現力）が求められる。本講義では日本語の文章表現力の基本（①的確な言葉を使い、乱れない文を書く。②事実と意見を峻別し、わかりやすい文章を書く。③自分の書いた文章の推敲ができる。）を身につけることを目標にする。
	基礎	文章表現法Ⅱ	自分の考えを文章で伝えるためには、まず、的確な言葉を選んで乱れない文（正しい文）を書く力が必要である。本講義では①言葉を磨く、ものを幅広く深くみる力をつける。②論理的な思考を身につける。③自分のメッセージをきちんと相手に伝えることのできる、説得力に富んだ文章表現力を身につける。そして④文章に対する苦手意識を克服し、社会で通用する「文章によるコミュニケーション能力」を身につける。ことを目標にする。
スポーツマネジメント学	基礎	スポーツマネジメント論	スポーツは今日、人々の話題の中心であり、高い関心が寄せられている。現代社会では、高度情報化やメディアの影響により、テレビ等映像による観戦スポーツが顕著に発展した。このような「みるスポーツ」のみならず、「するスポーツ」「ささえるスポーツ」などスポーツには多面的な関わり方が存在し、人々の潜在ニーズも高い。そこで本講義では、多面的なスポーツの普及・定着をめざす組織・事業に焦点を当てる。具体的には、プロのチームや地域に根ざしたクラブなどの組織・事業をどのように創り、継続・発展させていくのか、事例を用いて明らかにしていく。
	基礎	スポーツ経済学	わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されている。本講義の目的は、経済学の考え方を基にして、スポーツ活動の役割や可能性を考えていくことにある。経済学は「選択の学問」と呼ばれることもあり、スポーツの諸課題を解決するうえで重要な示唆を与えてくれる。また、スポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握し、スポーツにまつわる経済活動についての知識も深めていく。
	基礎	コミュニティスポーツ論	日本のスポーツ界の変革に対応すべき生涯スポーツ理論と実践に関する科学的根拠と具体的な取り組みを学ぶ。また、スポーツ基本法を踏まえた日本のスポーツ政策は、どのような成果や課題を抱えているのかについても学ぶ。さらに、日本におけるスポーツ文化について考える。「スポーツの持つ力」と「スポーツの価値」を理解し、自分自身がどのように生涯スポーツに関わる事が出来るかを考え、復習する。指導者としてだけでなく、企画者やハードの提供者など様々な可能性があるため、その可能性と自分との関係性において考え、学ぶための講義を行う。
	基礎	ボランティア論	阪神・淡路大震災以降、ボランティアの存在意義が高まってきている。ボランティアは、震災以外にも地域の清掃等身近な活動も含まれることから幅広い概念である。本科目はボランティアについての基本的な考え方を理解し、歴史的背景を踏まえながら、現代の社会福祉、地域社会とのつながりについて考察していく。
	基礎	スポーツイベント概論	スポーツの祭典といわれるオリンピックをはじめ、各種スポーツのワールドカップ開催は世界的なメガスポートイベントとして注目を集めている。これらのスポーツイベントの開催により生み出される社会への波及効果には、経済的効果や社会・文化的効果、地域活性化効果など、様々な影響が期待されている。一方、生涯スポーツや競技スポーツとして人々が「スポーツをする」ことを中心とした参加型のスポーツイベントにおいては、スポーツの楽しさを享受することやスポーツを通じた自己実現が中心的な価値となり、多種多様なスポーツイベントが展開されている。本講義では、様々なスポーツイベントを取り上げ、プロスポーツの興業イベント、即ちエンターテインメントとしての仕組みづくりや企業戦略となるスポンサーシップ、また参加型のスポーツイベントのマネジメントについて概説するとともに、スポーツイベントのサービスづくりを実践的に学修する。
	基礎	eスポーツ概論	日本人の中に強く根付く「スポーツ＝運動・体育」の常識を変えるところからスタートし、小規模コミュニティから始まり、徐々に広がっていく中でプロ化、巨大ビジネス化したeスポーツの成立から発展の歴史を詳しく学び、海外の流れと、先進国の中で唯一その動きに遅れた日本の流れも丹念に検証し、それぞれの発展の背景も比較する。eスポーツの主要競技についても学び、競技の上流にゲームパブリッシャーを持つというスポーツの中でも特殊な形態を持つeスポーツの特徴も理解する。既存メディア、都市開発、フィジカルスポーツシーン等を巻き込みながら日々益々大きくなっていくeスポーツの過去と現在の理解を深めることを目的とする。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメント学	スポーツ行政学	本授業は、わが国のスポーツ行政について、国・都道府県・市町村の三つのレベルにおける行政体のしくみ・役割・政策について、身近なスポーツ事業が、どのようにスポーツ行政と関わっているのかといった具体例をあげて講義を行う。また、スポーツ行政の政策を実現するためのスポーツ関連団体やスポーツ事業についても紹介する。	
	スポーツジャーナリズム論	メディアから伝えられるスポーツ情報は多種多様である。スポーツに関わる人間であれば、情報の真贋、情報伝達の過程、伝えられたファクトの背景にまで思いを寄せることが重要である。本授業では、新聞、雑誌、放送、インターネットにはん濫するスポーツ情報の現状を把握し、メディアの特質を理解する。スポーツに関わる人間として情報を取捨選択し、スポーツの本質を正しく分析する能力を身につける。	
	スポーツ施設マネジメント論	屋外スポーツ施設、体育館・武道館、水泳プール、音響、照明、スポーツフロアー、用器具、芝生など体育・スポーツ施設全般の維持管理に関する総合的な知識について学修し、スポーツ施設の管理者としての基礎的能力を身につける。	
	クラブマネジメント	スポーツクラブが自主的に独立し健全に発展するためには、人材、施設、財源、広報など、効果的なマネジメントが不可欠となる。そこで、本講義では、設立のノウハウ、運営・指導・評価を学び、スポーツマネジメントにおける実践的な知識を修得し、学校体育へも展開することのできる能力の獲得を目指す。	
	まちづくり政策論	この講義では、現代における「まちづくり」とその政策的位置づけについて考察していく。特に、地方分権化が進む中で、「まち」がどのような課題を抱えており、それらに対してどのような解決策を模索しようとしているのかについて、政策決定の理論やデモクラシーに関する議論、新しい都市の形態及びそれらを支える制度にも触れながら考察していく。現代社会の中で「まち」を作るといことがどのような意味を持つものであるのかを理解すると同時に、それらが要請されるに至った政治的社会的背景について理解することを目標とする。	
	スポーツビジネス論	スポーツの発展に伴ってスポーツをビジネスとする動きも増加傾向にある。スポーツビジネスには、スポーツを見せるプロスポーツ、スポーツを教えるビジネス、場所を提供する競技場ビジネス、用品ビジネス、報道などスポーツメディア、大会開催などイベントビジネスがある。それぞれの特徴を事例を通して学び、一般企業との違いを整理する。また経営学的な要素、損益分岐点、マーケティング、競争戦略、イノベーション、などのフレームワークを使って専門的に論じてゆく。	
	マーケティング論	モノやサービスが充足し多様化している現代にあつて、いかにして消費者に製品やサービスを受け入れてもらうかが、重要課題となってきた。本講義では、マーケティングの歴史や基本的な考え方を踏まえて、要素的な4つの戦略や個別的なブランド戦略等について説明する。また実践的な観点からマーケティング実践のための分析手法について説明する。	
	ビジネスプランニング	あらかじめ提示された技術やアイデアを活用した新事業を立ち上げるためのビジネスプランを作成し、プレゼンテーションを行う。そのため、イノベティブな思考方法、事業機会の発見と評価、ビジネスモデルの構築、必要な経営資源の算定と調達方法などについて、グループワークによって自ら情報収集し、分析・検討し、その成果を用いてビジネスプランを作成する。	
	経営戦略論	この授業では、経営戦略の理論とその体系を学ぶ。具体的な企業事例を通じて、経営戦略の実践方法を学び、戦略思考を身につけるとともに、戦略プランの策定及び実行といった実務能力を身につけることを目的とする。また、経営戦略の歴史を学び、古代から現代にいたる戦略の動向を学んでいく。	
	会計学	会計は、国や地方自治体、企業、個人等の経済活動を、貨幣尺度を用いて記録、計算、集計、報告する行為であり、特に企業においては、その活動の管理をするだけでなく、対外的に企業活動の成果を説明するために行われている行為である。企業会計は、複式簿記を計算ツールとして、企業の財政状態と経営成績を明らかにする役割を担っており、その仕組みは巧妙で、かつきわめて論理的なものである。本講義では、企業会計に関わる基礎理論を解説し、企業会計の基本的な仕組みを学んでいく。	
	スポーツイベント演習	スポーツイベントプロデュースを現実に実行していく際には、様々なジャンルの専門的な知識が必要となる。個々にはスペシャリストが存在するが、それらを統括し且つリードするためには相応の知識と経験が必要とされる。この授業では(1)イベントの運営を評価する力、(2)イベントの持つ社会的機能など専門的知識を学修し、優れたスポーツイベントを運営するノウハウを修得し、プロデュースの基礎的知識を身につける。	
	eスポーツ文化論	eスポーツの発展とともに、いわゆる「テレビゲーム＝遊び」「テレビゲーム＝悪」の構造からいかにして「プロスポーツ」「教育現場への進出」「若者へのマーケティングの切り札」へと展開していったかを考察して、行政・経済・教育など私たちの社会生活に関わる文化現象として捉えながら、その特性を考える。また、スター選手・有名プロチームの誕生や彼らを取り巻く現象を研究することで、デジタルネイティブな若者層の行動と密接にかかわるデジタルメディアとの関係性を含めて考察していく。更に現在進行形で行われている地方再生の切り札としてのeスポーツに注目し、地方での課題解決にeスポーツが果たす役割や進むべき道についても考えていく。	
	スポーツイベント基本A (スポーツコンテンツ)	今日のスポーツは、メディアの発展と共にコンテンツとしても多様化しており、エンターテインメントとして確立している。これらのスポーツコンテンツはスポーツ本来の魅力である試合と様々な付加情報を組み合わせることで成り立っているといえる。つまり、スポーツコンテンツの充実、試合と情報、コンテンツの相互の関連づけが効果的に働いているからである。この授業では、試合の魅力とそれを構成する要素、付加情報、それらを編集してできるコンテンツとの関連について学修していく。	
	スポーツイベント基本B (PA基礎)	今日のスポーツのエンターテインメント化によって、音響の果たす役割は大きい。この授業ではPAについて、その役割の解説をし、実際に機材に触って理解を深める。具体的には楽器にマイクを立てて、その音量感などを体験しながら音に対する感覚を養うとともに、基本的な機材の取り扱いを覚える。また、イベントの規模や内容によって変わる機材や音響効果、PAの役割などを解説していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメント学	健康	現代スポーツ概論	この授業では、スポーツにおけるパフォーマンス、経済、健康、文化、教育などをキーワードとし、現代スポーツの展望と解決すべき課題を、スポーツの多様化の視点から解説する。また、最新の話題を通じてスポーツ科学分野における広範な知識や情報を修得し、自らが取り組むスポーツシーンにおいて活かすことができる能力を養う。	
		スポーツ教育論	これまでの日本における学校体育の目標・内容・方法を歴史的に検討し、今日の学校体育／スポーツ教育が抱える課題や今後の展望について考究する。その際、地域スポーツあるいは諸外国におけるスポーツ教育の歴史や現在の動向を比較的に関連づけ、国際的な視野形成も含めた幅広い知識の修得を図る。	
		スポーツ史	スポーツと人間との関わり合いを歴史的観点から概観する。オリンピックやワールドカップなどの巨大スポーツイベントの意義や問題点、各種種目の発展の経緯、我が国の体育・スポーツの歴史的發展と問題点などを可能な限り映像資料を用いて具体的に理解する。一方的に知識を吸収するだけでなく、他者との意見交換やコメントシートへの記入によって、自身の考えをまとめ、発信する習慣を養う。	
		トレーニング論	トレーニングに関連する生理学および解剖学の基礎、トレーニングの原則とトレーニング効果に関する科学的知見を解説する。体力の測定および評価方法、目的別トレーニングの安全かつ正しい実施方法および指導上の注意点、トレーニングプログラムの作成方法の解説と実践を行う。トレーニング科学を構成する基本的な生理学、解剖学、体力科学を理解し、安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を学ぶ。	
		コーチング論	現象学的・人間的立場から人間の運動の構造と発生を理解する。併せて、これらの知見を運動指導・運動学習に用いるための方法論を修得する。スポーツ指導者として、適切な人間関係を結ぶためのコミュニケーション能力獲得の方法、指導現場で発生する諸問題を適切に解決するためのスキルの獲得、選手を取り巻く諸問題をマネジメントする能力の獲得や指導者として身につけておかなければならないモラル等について学び、実際のスポーツ指導に必要となる基礎的な知見を身につけることをねらいとする。	
		機能解剖学	人体を形成する骨格と筋は、我々の意思を反映した運動を可能にする。人体の構造と機能は、スポーツ科学を学修する者にとって必須の知識である。講義では、人体にある骨や筋、腱や靭帯の種類や働き、また関節の仕組みや働きについて理解する。	
		スポーツ生理学	身体の仕組みは、私たちが想像しているよりも複雑である。本講義では、身体の仕組みや運動中の身体の反応に目を向け、基礎から生理学について学び、スポーツとの関連について理解を深める。授業を通じて得た知識を基に、今後、生涯にわたって健康で生きがいに満ちた日常生活を送れるようになること及び適切なスポーツ指導や運動療法を実施できるようになることを目標とする。	
		公衆衛生学	この授業のねらいは、第一に、現代社会における人間や生活についての理解を深め、社会や文化それに環境が人間の健康をどう規定し左右するか、文化・社会政策の関わりからその科学的知見を講義する。第二に、個人と集団の健康保持・増進、疾病予防、健康寿命の延伸のために公衆衛生の重要性を理解し、学修した科学的知見を実際の日常生活の中に役立て、さらにこの学修を発展・応用できるようにすることである。授業内容として社会・環境と健康、疫学、精神保健、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、地域保健、疾病予防と健康管理、食育、食品保健などである。	
		健康教育法	学校における児童・生徒の健康、安全について学校保健が果たす役割、活動の実際について学修する。児童・生徒の現状を把握し、学校における環境衛生や安全・健康増進の活動について保健学習や保健指導が担う役割について学修する。また、学校保健管理の側面・領域・方法を理解し、学校外で実施されている保健管理との違いについて説明できるようにすることおよび学校保健関係法規についても理解し、学校教育においてなぜ学校保健管理が必要なのか、その意義と根拠について説明できるようにすることを目標とする。	
		スポーツ社会学	スポーツにかかわる様々な事象を社会学的視点から分析し、理解し、説明する力を身につける。社会学的視点とは具体的には社会事象を説明する諸理論である。具体的にはプレイ論、スポーツ近代化論、スポーツ指導者論、ジェンダー論、社会化論などを使い、スポーツとは何か、大相撲の構造的な問題点、スポーツにおけるジェンダーバイアスなどについて考える。またスポーツにかかわるそれらの諸問題を批判的に理解、説明し、スポーツの社会的発展に結びつける力を身につける。	
		スポーツ法学	本講義では、今後のスポーツ文化発展に関連して、スポーツ法学とは何か、スポーツに関する法とはどのようなものか、法的諸問題としてどのような問題があるのか、といった視点から具体的事例を交えながら学修する。	
		本専科	科目	スポーツ哲学（体育原理）
発育発達論	人間の身体は発育に伴い形態的な変化が生じ、それに伴い身体の機能も発達していく。例えば、筋肉は大きくなり、発揮出来る力は大きくなる。身体の発育変化・発達変化を正しく把握することは、私たちが生涯に渡って健康に過ごすために極めて重要であるとともに、子どもの体力低下といった昨今の社会的な問題を解決していくためにも必要なことである。この講義では、人間の身体がどのように発育変化・発達変化をするのか基礎から学び、さらに、運動が発育変化・発達変化にどのような影響を及ぼすのかについても考察していく。			
野外活動教育論	現代社会における野外教育の意義を理解すること、また、野外教育の実践方法を学び、組織キャンプなどのサポートの指導ができるようになることを目標とする。アイスブレイク、トレッキングまたは水辺活動等のアクティビティ、キャンプファイヤー等の活動意義の理解を深める。			
目	目	学		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメント	健康科	レクリエーション概論	現代の社会課題から、レクリエーションの果たす役割を理解し、援助するための基礎理論を学ぶ。また、組織としてのレクリエーションの各協会等の事業や役割を理解し、教育・保育・福祉の現場はもとより、広く市民にとって魅力ある事業を行うための企画や運営の仕方について具体的に学ぶことを目的としている。	
		レクリエーション演習	レクリエーション概論でレクリエーションの基礎を学修した上で、子どもから高齢者までさまざまな対象者が「楽しい」と感じるレクリエーション活動の支援方法を学修する。そして、レクリエーション活動の意義と援助者としての役割を理解すると同時に、援助・支援の方法、留意点について学ぶ。レクリエーション活動は個人だけでなく、人と人との交流により楽しさの共有を目指すものであるため、理論と実践をとおして広い視野から学ぶ。	
		スポーツ心理学	本講義では、運動行動やスポーツ活動に影響を及ぼす心理的要因、および運動やスポーツ活動が個人の心理的成長やメンタルヘルスに及ぼす影響を検討していく。すなわち、スポーツ心理学の考え方を基盤として、①運動、スポーツ活動への参加を説明する諸理論、②個人や集団の生産性（パフォーマンス）に影響を及ぼす心理的、社会的要因、そして③個人や集団の生産性（パフォーマンス）を高める方法について概説する。	
		スポーツ医学（内科）	スポーツ活動が重要視され、参加人口が増えていく一方で、スポーツに関連した障害・疾病も多くみられるようになった。このような障害・疾病に対して予防や対処、処置を学ぶことは、将来、指導者や体育教師になる者にとって必要不可欠な知識であり、それ以外の人にとっても、突然の出来事に冷静に対処する上で重要な知識といえる。本授業では、内科的分野に焦点を当て、身体の基本的な仕組みからスポーツに関連した障害・疾病、栄養やメンタルヘルスなど多岐にわたってスポーツ医学に対する知識を深めることを目的とする。	
		スポーツ医学（整形外科）	スポーツに関連した障害・外傷を予防することや受傷してしまった時に適切な処置がとれるか否かは、指導者や体育教師を目指す人たちにとって、また、一般の人たちにとっても、極めて重要な課題であるといえる。本講義においては、整形外科的分野に焦点を当て、はじめに身体各部位の骨や腱、筋や靭帯について学び、その上で、スポーツに関連した障害・外傷について学ぶ。その後、怪我からの復帰の為に必要なリハビリテーション、テーピングなどの患部の固定や救急処置についても学んでいく。	
学部スポーツマネジメント	ビジネス	スポーツマネジメント実習	本実習では、スポーツマネジメントの現場へ参加するための意義と目的、実習先に対する心構えについて内容を確認し、実習先に対する理解と目標設定に関する学修を進める。また、社会人としての一般的なビジネスマナーや成果報告書の執筆方法について講義・実習含め行う。次にスポーツ関連企業、行政機関、非営利団体等の現場において就業体験を行う。自己の職業適性やキャリアデザインにおける職業選択について深く考える契機となり、高い職業観や就業観の涵養や時代の変化に対応できる基礎的・汎用的能力が育成されることを目的としている。また、大学で学ぶ講義の内容が現場ではどのように活用されているかを認識する。	
		スポーツマーケティング演習	現代のスポーツをビジネスの視点でとらえ、その現状と現代的な課題を検討するとともに、Jリーグに代表されるプロスポーツクラブ（チーム）の運営をいかに進めていくか、そのあり方について内外の文献及び討議さらには実地研究によって得られた知見によって明らかにする。さらに、プロスポーツにおけるスポーツマーケティングに関するフィールド・サーベイからスポーツマーケティングの実情について総合的に学修する。	
		スポーツ社会調査論	生涯スポーツや競技スポーツの現場におけるさまざまな現象の調査企画と実施方法、さらには、調査データのコンピュータによる統計的分析とレポート作成の方法論を学ぶ。授業の前半は、社会調査の事例や方法について学び、後半は調査テーマにそって社会調査の実践を行う。また、調査内容を集計して分析した結果に基づき、図表などで表わした発表資料の作成、スポーツプロモーションに必要なコンピュータを利用した社会調査データの活用について理解を深める。	
		スポーツ産業論	スポーツ産業は長年、スポーツ用品産業、スポーツ施設産業、スポーツサービス産業、スポーツ情報（メディア）産業に区分されてきた。スポーツの3要素である「観る・する・支える」と複合的に関連して成り立っている産業であるが、近年、健康やスポーツに対する関心の高まりとともに、その裾野が急速に広がってきた。特にメディアの発達にはスポーツ界に権利ビジネスを確立、スポーツのあり方を大きく変化させた。この授業では、こうしたスポーツ産業界の変化を捉え、伝統的なスポーツ産業から新ビジネス分野まで、全体的、多角的に解説。スポーツ産業の基礎知識を講義するとともに、新たなスポーツビジネスの可能性について考察する。	
		スポーツビジネスプランニング演習	現代社会におけるスポーツの価値や意義、そしてスポーツ産業の総体を明らかにした上で、多岐にわたるスポーツ・ビジネスの実態を検証する。具体的には、オリンピックやサッカーワールドカップなどのメガ・イベントビジネスやJリーグ、プロ野球、プロゴルフなどのプロスポーツビジネス、さらにはスポーツ用品ビジネスやスポーツクラブビジネス、ボウリング場やスキー場ビジネスなどについて検証を行い、総合的かつ実践的なスポーツ・ビジネスを探索する。	
		スポーツ施設マネジメント演習	スポーツ施設マネジメントの観点から、顧客管理、広報戦略、人事管理、財務・予算管理、危機管理など体育・スポーツ施設の運営に関する総合的な知識について学修し、施設の効率的運営及び活性化の方法について応用的能力を身につける。	
		チームマネジメント論	チームにおいて必要なこと、大切にすることなどチームに関することに加え、メンバー（他者）との関わり方、信頼関係を育む方法などを学び、学生一人ひとりが「チームとは何か？」について自らの言葉で明確に語るができるようになることなど自らチームや集団をマネジメントするための考え方を学ぶ。理論に基づいた知識やスキルを得ることでよりよいマネジメントを提供できるようになることを目指す。	
		スポーツブランド論	スポーツブランドについて、身近な商品・企業事例を取り上げ基礎的な知識や概念を修得し、同時に、スポーツブランドを通じた経営課題解決力を養うことを目指す。日々の生活、身近に接する企業活動に対し興味関心を持ち、ブランド視点で考え、整理する力を身に付けることを目標とする。	
目録	スポーツとまちづくり	スポーツ活動によるまちづくりを実現する手段として、コミュニティをデザインする手法について理解する。地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携・協力して、身近なスポーツ環境を改善し、まちの活力と魅力を高め「スポーツによる生活の質の向上」を市民協働により実現するための方法を学修		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメント学	ビジネス	スポーツツーリズム	スポーツツーリズムの概念は多岐にわたる。「観る・する・支える」と表現されるスポーツ分野及び観光、旅行、宿泊、宿泊などのツーリズム分野。この2つの要素を組み合わせた地域活性化分野。この大分類の下で、それぞれの立場から、スポーツツーリズムの概念は形成される。このような観点からこの授業では、今後さらに裾野を拡大するスポーツツーリズムの基礎、その発達過程を検証するとともに、より一層、複雑で多岐にわたるであろう同分野を理解し、次世代が積極的にかかわっていただけるように、幅広い領域にまたがる課題を丁寧に解説する。授業は可能な限り、各分野の最先端事例を紹介しながら、実践的視点を盛り込んだ講義をする。	
		スポーツ映像（映画・音楽）	日本では数は少ないが、欧米ではスポーツを題材とした映画が少なくない。なぜ、スポーツは映画となり、別の角度からスポーツ普及に役立っていったのか。オリンピック記録映画が造られ、ほかの一般映画製作にも影響をあたえたのだろうか。そして映画の中で音楽は重要な役割を果たしている。音楽は映画にとって欠くことのできない存在である。スポーツ、映画、音楽の関係について学修する。	
		eスポーツビジネス論	eスポーツは今やオリンピックでの正式種目が検討され、F1やNBA等が公式リーグをスタートさせ、アメリカの4大スポーツの一角に入るとまで言われるほど巨大化しつつあり、それを取り巻くビジネスも多様化し、成長の一步を辿っている。既存のフィジカルスポーツマーケティングで行われる入場料収入、スポンサー収入、放映権収入、マーチャンダイズ収入のビジネスモデルのみならず、デジタル時代に即した新しいビジネスが続々と創造されつつある。現在進行形で次々と生み出される動きをキャッチアップしつつ、その問題点なども理解し、次世代eスポーツの発展に必要なビジネスモデルを様々な角度から学修する。	
	産業	スポーツイベント展開A（メディアコンテンツ制作配信）	スポーツに関する映像コンテンツの制作とその配信／発表は表裏一体である。メディアのデジタル化は制作されたコンテンツの発表形態を、従来の放送・上映といった形態に加え、DVD、インターネットストリーミング、さらには携帯端末での視聴など多様な形を可能にし、既に私たちはそれらを日常的に使う状況にある。この授業では普段、無自覚に使っているこれらを自覚的に捉え、実際の映像作品にも触れながら、体系立てて理解することを目指す。	
		スポーツイベント展開B（ライブPA）	ライブイベントのあらゆる場面に共通のPAや音響を学ぶ。そして、スポーツイベントを想定したPA実技や教員の楽器の音量感について学ぶ。スポーツイベントにおけるライブPAの実践を積むことを目標とする。	
	健康	バイオメカニクス	バイオメカニクスとは、「生物学」を意味するバイオロジーと「力学」を意味するメカニクスを合わせた言葉で、生物・生体の運動とその原因となる力などの関係について法則を見つける応用科学分野である。例えば、人間の運動における筋肉や腱の働きについてそのメカニズムを解明することや野球において変化球と呼ばれる球種はなぜ変化するかを明らかにすることなどがバイオメカニクスで扱う領域である。本講義では、私たちの基礎的な身体構造の仕組みから、スポーツのパフォーマンスを向上させる要因について幅広い視点から学んでいく。	
		スポーツ栄養学	スポーツ栄養学では、栄養学の基礎からはじめ、健康な体づくりを目指した運動と栄養について、また競技力向上を目指した栄養についてをテーマに授業を行う。現在あふれている多くの情報に惑わされず、自らに合った食生活の実践を目指し、まずは自身の食生活を振り返ることができるように、さらに将来指導者となった場合は、指導現場での食生活の改善に取り組むことができるようになることを目的とする。	
		スポーツデータ解析	昨今のスポーツの場において、スポーツのデータは試合展開そのもの、即ち、試合の流れを数値化・可視化しゲームプランを構築するような場面に活かされている。例えば、野球において打者の苦手なコースを抽出することやサッカーにおいて得点を得やすい展開を作るようなことにスポーツのデータ解析は用いられている。この講義では、データに基づいてスポーツを分析する手法を学び、今後、自分でスポーツのデータの分析と解釈ができるようになることを目的とする。	
		レクリエーション実習	レクリエーション概論とレクリエーション演習をふまえた上で、実際の活動の場において体験学修を行う。レクリエーションを幅広い年齢層の人々が楽しめるように、ソフトの提供、対象に応じた技術の指導、活動の援助等、レクリエーションのための総合的な指導と援助活動について実習を行う。また、地域で開催されるスポーツやレクリエーション関連のイベントに参加し、企画・運営について学修する。	
		救急処置・テーピング演習	スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手や生徒に指導できるようにすることを目的とする。スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることを目指す。	
	児童	幼児体育演習	幼児に適したあそびの重要性を学ぶ。この授業では学生自身が伝承あそび、運動あそびや集団あそびを通して、コミュニケーション能力や積極性を身につけるとともに、幼児の身体的特徴や発達を理解し、それに基づいたあそびや運動方法を修得する。幼児期の子どもの年齢や個人差に応じた指導法を修得することを目標とする。	
		ジュニアスポーツ演習	近年、子どもの体力低下等の問題から、ジュニア期のスポーツ指導の重要性は高まっている。子どもたちに「スポーツを楽しむ・好きになる」ことや様々な「動き」について体験を通じて学ばせ、スポーツ活動の土台を作り上げることが指導者にとって大きな役割となっている。本授業では、子どもたちのスポーツ指導をして行く上で、必要な知識や技能について仲間との交流を深めながら、演習形式で学んで行く。加えて、スポーツ活動の効果を客観的に理解・評価できるように健康体力に関して測定と評価についても学ぶ。	
		サッカー指導法Ⅰ	この授業では、サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を修得し、指導計画を立て、指導側と指導される側を経験する。指導実践における指導方法、指導内容、試合の分析・評価についてディスカッションを行う。	
	目	サッカー指導法Ⅱ	サッカー競技の普及・育成を図るための基本である試合の分析・評価ができ、指導案の作成を通じて、ピッチレベルで指導が出来る人材を養成する事を目的とする。日本サッカー協会指導者養成プログラムを基本にコーチング法を学び、効率的かつ効果的な指導技術を身につけ、様々な場面で指導ができる広い視野をもった指導者の育成を目指す授業を展開する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメント展開科目	健康科学	スタジオエクササイズ・トレーニング&フィットネス	スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。各種トレーニングの中でもストレッチング、スタビリティトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。	
		スタジオエクササイズ・ピラティス	ピラティスは約90年程前、ドイツ人のジョセフ・H・ピラティスがリハビリ用に考え出されたものがエクササイズの原型である。姿勢を改善し、体のバランスを整え柔軟性と筋の発達を手助けする。授業では呼吸とコアの意識をもつことが非常に重要である。前半は基本動作を理解習得し、後半は自分にあったプログラムづくり→実践→ふりかえりと移行していく。そしてエクササイズを通じて日頃抱えている身体問題（腰痛・肩こり・冷え性など）を解消し、身体の機能を高めることを目標とする。	
		スタジオエクササイズ・ヨガ	この授業では、ヨガの東洋的身体技法を通して「からだ」「健康」について学んでいく。アーサナ（ポーズ）やプラーナヤマ（呼吸法）などを行うことで、心と身体がどう変化していくかを感じ、穏やかな心としなやかな体の獲得を目指す。また、心身をコントロールすることを学び、現代社会を、心身共に健康的に有意義に過ごしていくための術を習得していく。	
スポーツマネジメント	実技	スポーツ方法・体づくり	運動不足による生活習慣病やメタボリックシンドロームの広がりが人々の健康を脅かしている。本授業ではレジスタンス・トレーニング（ウェイトトレーニング）を中心的な題材にして体づくりの基本を学ぶ。またトレーニングを通じた集団行動の必要性を学び、実践する。体づくりの基本を習得し、さらに一歩進んでトレーニング・プログラムの処方ができるようになることを目標とする。また個々人の目的別運動負荷度を測定から知り、目標運動負荷を設定出来るようにする。	
		スポーツ方法・陸上	陸上競技においては、決められた形式の中で走・跳・投それぞれの運動を「速く走る」「速くへあるいは高く跳ぶ」「速くへ投げる」などの出来映えを競う。本授業ではそれらの特性を受けながら、走に焦点を合わせて特に長距離系の能力の開発を目指す。跳の運動も能力の評価の重要な要素となるので随所に絡ませながら、自分に合った距離を決めて出し切れるようにする。基礎的なスポーツ生理学の知識を導入した自己管理の方法をマスターし、それによって自己の能力をインデックス化してコントロールし、トレーニングを自己管理できるようにすることがポイントとなる。	
		スポーツ方法・ソフトボール	学校体育の球技「ベースボール型」で述べられている内容を扱っていく。具体的には、ソフトボールの基本的な知識を整理・習得し、個々で技能実践できるようになることを目標とする。また、授業で得た知識を実践の指導場面において、対象者に対してソフトボールの魅力、個人技術・集団技術を伝えられる指導者の育成を目指す。知識・技術構築と授業づくりにおいて必要な点を整理し、理解度を高めていく。	
		スポーツ方法・球技A（サッカー、ラグビー）	学校体育の球技「ゴール型」で述べられている内容を扱っていく。具体的には、サッカーおよびラグビーの基本的な知識を整理・習得し、個々で技能実践できるようになることを目標とする。また、授業で得た知識を実践の指導場面において、対象者に対してサッカー、ラグビーの魅力、個人技術・集団技術を伝えられる指導者の育成を目指す。知識・技術構築と授業づくりにおいて必要な点を整理し、理解度を高めていく。	
		スポーツ方法・球技B（バスケ、ハンドボール）	学校体育の球技「ゴール型」で述べられている内容を扱っていく。具体的には、バスケットボールおよびハンドボールの基本的な知識を整理・習得し、個々で技能実践できるようになることを目標とする。また、授業で得た知識を実践の指導場面において、対象者に対してバスケットボール、ハンドボールの魅力、個人技術・集団技術を伝えられる指導者の育成を目指す。知識・技術構築と授業づくりにおいて必要な点を整理し、理解度を高めていく。	
		スポーツ方法・球技C（バレー、バドミントン）	学校体育の球技「ネット型」で述べられている内容を扱っていく。具体的には、バレーおよびバドミントンの基本的な知識を整理・習得し、個々で技能実践できるようになることを目標とする。また、授業で得た知識を実践の指導場面において、対象者に対してバレー、バドミントンの魅力、個人技術・集団技術を伝えられる指導者の育成を目指す。知識・技術構築と授業づくりにおいて必要な点を整理し、理解度を高めていく。	
		スポーツ方法・器械運動	小学・中学・高等学校で扱われる器械運動（マット・跳び箱・鉄棒運動）を通して、調整力（巧緻性・敏捷性・平衡性）を高めるとともに、各種目における予備運動・基礎運動・段階的練習法・補助方法・基礎的理論を学修する。学修指導要領に記載されている器械運動の技の段階的練習法・補助方法・予備運動・基礎運動を理解、技の習得を目指す。	
		スポーツ方法・水泳	水中あるいは水上で自分の体を思いのまま扱えるようにするために、浮く、沈む、壁を蹴る、潜る等の基本動作から学修する。また、過去から最近へと進歩してきた泳技術とその変遷から理論的に学修し、近代4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の推進メカニズムを理解する。最終的には各種泳法を習得し、100m（～400m）個人メドレーの完泳を目標とする。さらには、泳法の習得ばかりでなく、着衣泳、水辺における救助法についての学修や、時には水中環境を利用したゲームの実践から、水中における自己保全能力、安全管理能力を養う。	
		スポーツ方法・柔道	学校体育における武道領域の柔道を、安全かつ円滑に指導する能力、技術を育成する。道着の正しい着装から礼法、身体動作、受身、立技、寝技の基本技法に則った約束稽古を中心に展開する。安全に柔道授業を実施するためには、それに応じた安全に留意し、確保に努める配慮と注意力も要求される。柔道の文化的背景・特性を学びつつ、学修者の習熟段階に応じた安全な指導法を体得する。一連の基本技法体得を通じて柔道精神である精力善用、自他共栄について考える機会とする。	
		スポーツ方法・剣道	剣道の基礎的な知識、基本的動作及び技能（攻撃・防御）を理論的に体得させ、歴史や正しい礼法の知識を学び、相手を尊重し、公正な態度で練習や試合ができるようにする。剣道の特性、技術の理合を理合すると共に、基本動作である礼法や技を習得し、安全に留意した攻防の習得を目指す。	
スポーツ方法・ダンス	身体表現のひとつであるダンスについて学修する。基礎的な身体トレーニングとしてのダンスから、表現技法としてのダンスに至るまでDVD等の資料を活用し、理解を深め、教育の現場においても活用できる応用的な能力を養うことを目的とする。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツマネジメント	野外実習	本授業では、①キャンプの楽しさの理解と野外生活技術の習得、②自然環境への関心の向上、③自己の在り方や他者との関係性の再認識、④表現する楽しさの理解、を主要テーマにしており、組織キャンプを実際に体験しながら学修を進めていく。現代の多様なスタイルのキャンプも理解しながら、組織キャンプはどのような意義や目的を持って計画・運営されているのかを体験を通して学ぶ。また、日常から離れた大自然の中での活動を通して、普段は感じることができない貴重な気づきを得ることに重点を置く。	
	雪上実習	学内においては、雪上実習に必要な知識・基礎体力づくり・トレーニング、実習要項づくり等を行う。学外実習では、冬の代表的なスノースポーツであるスキーやスノーボードについて、基礎の技術体系や指導法、安全対策、自然環境など、関連概念を含めた知識を獲得する。実際の体験から困難な状況への挑戦とスキル向上による達成感、および自己実現の喜びを感じる。また、共同生活を通して適正な社会性を身につける。	
マネジメント学部	教職キャリアデザインⅠ	教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかについて学んでいく。そして、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。	
	教職キャリアデザインⅡ	この授業は、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、姿勢の理解を補い、その定着を図ること目的としている。現行教員採用試験の実際例に即した一般・教職・専門・実技試験の基本的事項について講義し、知識定着の度合いを計るために演習問題を行う。また、論文や各種面接、場面指導、模擬授業等は、現行教員採用試験の実際例に即して行う。授業は、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせ構成する。	
スポーツマネジメント学科専門科目	基礎演習	大学での「学び」を考え、基本的な学び方(アカデミック・スキル)を修得する。スポーツマネジメント学部の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等)を修得する。	
	プレゼミ	スポーツマネジメントを専門的に学ぶための基礎的知識を修得する。スポーツマネジメントに関する諸問題をとりあげ、これらの諸問題を理解するための学ぶべき理論や実践力の位置づけを明確にする。学生は自らの課題を見つけ調査・発表・討論等の演習をおとして、自らが獲得すべき資質や専門性を理解して、今後のキャリア形成への意識を高めていく。3年次からのゼミナール配属を意識した授業形式とする。	
	総合演習Ⅰ	総合演習Ⅰは、高い専門性と総合的視点による研究を主眼とし、基礎演習や科目の学修で獲得した知識・技法を活用した内容とする。ゼミナール形式を基本とした演習で、最終的には「卒業研究」につながる演習を行う。演習の内容は、各科目群における専門性を深めるという目的と、スポーツマネジメント学に基づく統合的な視点を養うことの両側面が充足されるように設定する。	
	総合演習Ⅱ	総合演習Ⅱは、授業においてプレゼンテーションを行う。総合演習Ⅰの演習を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定することを目的とし、過去の卒業研究、先行研究を読み込み、研究概要についてプレゼンテーションを行う。	
	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅰでは自らが課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学ぶ。また、1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる。ことを目標とする。	
	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅱでは、卒業論文を作成することを目的とする。自らが選択したテーマに則した研究方法、調査および分析の方法などを踏まえた研究成果をまとめることを目的とする。また、1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。ことを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に 関する 科目	保健体育科教育Ⅰ	本科目は、保健体育の教員免許取得に必修の科目であり、保健体育科教師になるために必要な力を身につけていく科目である。保健の授業を行う上で必要な理論と実際を学ぶ。また学習指導案の作成や課題学習、ロールプレイング、ディベートなどの指導手法を取り入れた模擬授業を行って実践力を養う。本授業は、学校現場での実際や課題などに触れながら進め、保健体育科教師としての即戦力を身につける。また、実施間近に迫った新学習指導要領についても学び、模擬授業に取り入れていく。	
	保健体育科教育Ⅱ	中学校・高等学校における保健体育科教育について、それぞれの学習指導要領に基づき、教科の目標、内容および実践的な指導のあり方として学習過程、学習形態等について講義および実技を通して学ぶ。具体的な領域としては体育分野における「陸上競技」、「球技」、「武道」を中心に、実際の授業実践における諸問題をとりあげつつ、中高生をどのように動機づけ、学習活動に積極的に参加させていくのか、また学習をいかに展開させていくことができるかを考えていく。	
	保健体育科教育Ⅲ	中学校・高等学校における保健体育科教育について、それぞれの学習指導要領に基づき、教科の目標、内容および実践的な指導のあり方として学習過程、学習形態等について講義および実技を通して学ぶ。具体的な領域としては体育分野における「体づくり運動」、「器械運動」、「水泳」を中心に、実際の授業実践における諸問題をとりあげつつ、中高生をどのように動機づけ、学習活動に積極的に参加させていくのか、また学習をいかに展開させていくことができるかを考えていく。	
	保健体育科教育Ⅳ	中学校・高等学校における保健体育科教育について、それぞれの学習指導要領に基づき、教科の目標、内容および実践的な指導のあり方として学習過程、学習形態等について講義および実技を通して学ぶ。具体的な領域としては体育分野における「武道」、「ダンス」、「体育理論」を中心に、実際の授業実践における諸問題をとりあげつつ、中高生をどのように動機づけ、学習活動に積極的に参加させていくのか、また学習をいかに展開させていくことができるかを考えていく。	
関する 基礎的 理解に 関する 科目	教育原理	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。具体的には、1. 教育の基本的概念の理解、2. 教育に関する歴史の理解、3. 教育に関する思想の理解、の3つの目標を設定して、授業を行う。授業にあたっては、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れる。また、我が国の生涯学習社会における学校教育及び教員の役割についても考察する。	
	教職概論	この授業では、第一に、教職の意義や教師の役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、教師を志望する学生が教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し動機付けを図ること、第二に、他の職業との比較などの機会を与えることにより、自らの教職への意欲、適性等を熟考させるとともに、「チーム学校」の重要性を理解し、最終的な進路選択について指導・助言することを目的とする。学校の日常的な教育活動を中心に、教育法規や判例にも触れながら、解説していく。	
	教育行政学	現代の教育行政について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する学校教育における諸課題を理解する。本授業を通して、教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて、現代の学校をとりまく具体的な諸課題に関連させながら、それに内在する具体的な課題の理解を図れるようにする。	
	教育心理学	教職課程履修者の必修授業である。教師にとって担当教科を教えることは当然のことであるが、最も重要な使命は生徒の人間の成長をはかることである。その点で、教師は一人一人の生徒の人生に関わっているのだと言っても過言ではない。したがって、教師には教科の指導力に加えて、生徒の精神的な発達や人間としての成長を促し育てる力量も求められる。本授業では、このような教師の責任を果たすために身に付けておきたい知識や人間観（生徒観）を中心に学ぶ。	
	特別支援教育論	日本の特別支援教育制度について、特別支援学校と通常学校における相違を中心に、教育課程、授業形態等の観点から解説をする。また、様々な特別な教育的ニーズを抱える生徒の障害の特性並びに心身の発達および学習上又は生活上の困難について、事例を交えながら解説をする。自立活動について、実態把握から個別の指導計画の作成、具体的な指導から評価についての一連の流れについて説明する。通常学校に在籍する、様々な特別な教育的ニーズを抱える生徒への対応の在り方について、事例やグループ検討を通じて学ぶ。	
	教育課程論	教職専門教育科目の一つとして本講義では、「何を、どう教えるか」の前半部分を考えていく。教育課程（カリキュラム）とは何か、なぜ教科があるのか、そして学級・学校生活や部活など授業以外の様々な活動がなぜ行われているのかを示す。学校教育の目的・意義とその達成の方策を踏まえて、「教育課程」・「教科」・「評価」等の重要概念について検討し、中学校および高等学校学習指導要領の内容を理解していく。ビデオ教材等を用いて具体的に教科や教育内容について考察し、毎回のノート記入や随時実施の小テストで理解と定着を図る。	
科目	道徳教育論	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。	
	総合的な学習の指導法	総合的な学習の時間について、その意義や学習指導要領における目標・内容を理解する。また、主体的・対話的で深い学びを実現するために、具体的にどのような指導内容の計画を立て、どのようにして生徒の学習状況等を把握し、評価等を行えばよいのかについて学習する。	
	特別活動論	特別活動の変遷を辿り、特別活動の教育課程上の意義と必要性を捉える。更に、具体的な特別活動の年間計画をする中で特別活動の構成内容を理解し、特別活動の根幹をなす個と集団の関係について理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に 関する 科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育方法論	教職専門教育科目の一つとして本講義では、「何を、どう教えるか」の後半部分を考えていく。実践的に「教え方」「授業の方法」「教育におけるメディア利用」「地域との連携方策」などを考えるために、近年の教育実践の動向を踏まえ、表現やプレゼンの技術、教育機器の利用法、学校生活の送り方や学校と地域との関連、評価方法等を理解する。ビデオ教材等を用いて具体的に教育方法・教育技術を学び、毎回のノート記入や随時の小テストを実施して理解と定着を図る。	
	生徒・進路指導論	生徒指導・進路指導の意義、内容、課題を総合的に理解し、実践において求められるガイダンス、カウンセリング、チーム支援等の理論と技法について学修する。生徒指導においては、いじめ、不登校、非行等の問題行動の現状を捉え、その原因・背景についての理解を深めるとともに、様々な課題に対応できる実践的指導力の基盤の形成を図る。また、進路指導・キャリア教育においては、児童生徒の生き方や自己実現に関わるキャリア形成の視点から、その目的、内容、及び、授業や体験学習等における実践の方向性について学修する。	
	生徒・進路指導特論	いじめ・不登校・暴力行為等の従来型の問題行動に加え、児童虐待・薬物乱用・ネット犯罪・自殺等の複雑かつ深刻な様相を呈する児童生徒の問題行動の現状を捉え、その原因・背景を理解し、心の問題への対応、危機対応、学校と家庭や地域社会、関係機関との連携システムづくりに関する生徒指導の理論と実践について、事例分析を通じて学習する。また、進路指導・キャリア教育については、キャリア形成に関する国内外の教育実践例の分析を通して、学校における進路指導・キャリア教育の充実のための具体的な方向性について学修する。	
	教育相談概論	学校では不登校やいじめ、暴力行為など「問題行動」と呼ばれる出来事が数多く起こっている。児童生徒の気持ちや悩み、かかえている問題を理解するには、教師→生徒という上下関係で生徒に相対するのではなく、児童生徒と同じ視点で児童生徒を理解することが大切である。この授業では、このような児童生徒の問題を解決するために、あらゆる機会を利用して行う教育相談をより効果的なものとするために必要なカウンセリングの基礎知識と児童生徒に相対する基本的態度を学ぶ。	
	教育相談特論	教職課程4年生を対象とした選択科目である。この授業は生徒たちの心の問題や教育相談（カウンセリング）に関する資料（新聞記事、映像など）を使用して、個人発表とディスカッションを中心に進める。生徒の心の問題の現状を知ると同時に、生徒理解に必要なカウンセリング知識と技法の習得も目的とする。	
教育実践 に関する 科目	教育実習指導	教育実習の意義と目的を理解し、教育実習生としての自覚と心構えを持つとともに、実習校における服務や教科指導、生徒指導、学級指導、HR経営など学校教育活動全般について学ぶ。	
	教育実習Ⅰ	授業参観や授業担当（うち研究授業を含む）、放課後の研究指導、学級経営への参加、部活動指導を行う。教育実習期間中に実習生との連絡をはじめ、実習訪問指導を実施する。研究授業見学と講評も含まれる。	
	教育実習Ⅱ	授業参観や授業担当（うち研究授業を含む）、放課後の研究指導、学級経営への参加、部活動指導を行う。教育実習期間中に実習生との連絡をはじめ、実習訪問指導を実施する。研究授業見学と講評も含まれる。	
	教職実践演習（中・高）	この科目は教職課程における講義及び介護等体験、教育実習などを通して、教員として必要な知識技能の修得状況を確認し、より確かなものとするための4年次必修科目であり、主な内容は下記の4項目である。 ①最近の子どもの特性を理解し、児童・生徒との円滑な関係づくりを学ぶ。また、教員としての社会的役割について考える。 ②教育現場での実践的指導力の育成と向上を図る。 ③模擬授業や現場視察・研修を取り入れ学習指導力の向上を図る。 ④学習指導要領に示される教育の情報化に対応できる能力を養成する。	
介護等体験のための 科目	介護等体験事前指導Ⅰ	義務教育の教員免許状（本学の場合は中学校免許状）を取得するために教育職員免許法で義務付けられている介護等体験（実習）を行うに当たって必要な知識と心構えを学ぶための授業である。個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的とし、次の事項について取り上げる。 1. 介護等体験の意義と理念について考える。 2. 介護等体験を通じて施設・学校に関わっている人びとについて知る。 3. ハンディのある方や高齢者の介護等を体験する中で、他者・自己の理解を深める。	
	介護等体験事前指導Ⅱ	義務教育の教員免許状（本学の場合は中学校免許状）を取得するために教育職員免許法で義務付けられている介護等体験（特別支援学校2日間と社会福祉施設5日間）に実際に出向くにあたっての具体的な手続きの進め方や留意事項、体験中必ず守らなければならない諸注意事項を学ぶための授業であり、次の事項について取り上げる。 1. 介護等体験の心構え、留意点について確認する。 2. 提出書類の書き方、記録のまとめ方を把握する。 3. 介護等体験の意義について、再考する。	

学校法人尚美学園

設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
尚美学園大学				→	尚美学園大学					
芸術情報学部					芸術情報学部					
情報表現学科	160	3年次 10	660		情報表現学科	160	3年次 10	660		
音楽表現学科	100	3年次 20	440		音楽表現学科	100	3年次 20	440		
音楽応用学科	70	3年次 10	300		音楽応用学科	70	3年次 10	300		
舞台表現学科	70	3年次 10	300		舞台表現学科	70	3年次 10	300		
総合政策学部					総合政策学部					
総合政策学科	100	-	400		総合政策学科	100	-	400		
ライフマネジメント学科	160	-	640			0	-	0	平成32年4月学生募集停止	
					スポーツマネジメント学部				学部の設置(届出)	
					スポーツマネジメント学科	160	-	640		
計	660	50	2,740		計	660	50	2,740		
尚美学園大学大学院					→	尚美学園大学大学院				
芸術情報研究科						芸術情報研究科				
情報表現専攻	10	-	20			情報表現専攻	10	-	20	
音楽表現専攻	10	-	20	音楽表現専攻		10	-	20		
総合政策研究科				総合政策研究科						
政策行政専攻	10	-	20	政策行政専攻	10	-	20			
計	30	-	60	計	30	-	60			
尚美ミュージックカレッジ専門学校				→	尚美ミュージックカレッジ専門学校					
ヴォーカル学科					ヴォーカル学科					
ヴォーカル学科	80	-	160		ヴォーカル学科	60	-	120	定員変更(△20)	
プロミュージシャン学科	100	-	200		プロミュージシャン学科	100	-	200		
アレンジ・作曲学科	80	-	160		アレンジ・作曲学科	80	-	160		
ミュージックビジネス学科	80	-	160		ミュージックビジネス学科	80	-	160		
音響・映像・照明学科	100	-	200		音響・映像・照明学科	120	-	240	定員変更(20)	
声優学科	60	-	120		声優学科	60	-	120		
ダンス学科	40	-	80		ダンス学科	40	-	80		
ミュージカル学科	40	-	80		ミュージカル学科	40	-	80		
ジャズ・ホッパー学科	40	-	80		ジャズ・ホッパー学科	40	-	80		
ピアノ学科	40	-	80			0	-	0	平成32年4月学生募集停止	
管弦打楽器学科	80	-	160		管弦打楽器学科	80	-	160		
音楽総合アカデミー学科(4年制)	60	-	240		音楽総合アカデミー学科(4年制)	40	-	160	定員変更(△20)	
計	800	0	1,720		計	740	0	1,560		